



The Jikei University
Graduate School of Medicine
Master's Program in Nursing

2016年度

東京慈恵会医科大学大学院
医学研究科看護学専攻修士課程

シラバス (授業計画)

目 次

I. 本書の目的と使い方	1
II. 履修の手続き	1
III. 専門看護師をめざす場合	1
IV. オフィスアワーについて	1

教育課程の構造図	3
教育課程の構造図＜専門看護師教育課程＞	4
教員一覧	5

＜共通科目＞

医療者教育論Ⅰ	9
看護倫理特論	10
看護研究方法	11
研究倫理特論	12
看護管理学特論Ⅰ	13
看護理論特論	14
コンサルテーション論	15
看護教育特論	16
医療統計学	17
保健医療システム論	18
医療者教育論Ⅱ	19
看護歴史学	20
国際医療論	21
感染防御論	22

＜専門科目＞

急性・重症患者看護学	25
がん看護学	37
看護管理学	49
母子健康看護学	56
地域連携保健学	63

＜研 究＞

看護学特別研究Ⅰ	73
看護学特別研究Ⅱ	75

I. 本書の目的と使い方

◇本書『シラバス』は、東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻修士課程で、2014年度及び2016年度に開講される授業について、学修内容を説明する目的でつくられています。本書には、授業科目区分（共通科目、専門科目、研究）、授業科目名、担当教員、開講年次、単位数、開講形態、授業概要、授業の進め方、授業計画、成績評価方法、教科書・参考書、受講上の注意が記載されています。

◇本書を参考にして、適切な学修計画（履修計画）を立ててください。あなたが所属する分野の履修基準を『2016年度 学修の手引き』で確認してください。

◇別途配布される『授業日程表（時間割）』で授業日を確認してください。

II. 履修の手続き

◇科目を履修するときにはかならず履修登録をしなければなりません。4月にオリエンテーション・ガイダンスを受けた後、指定の期日内に履修登録をしてください。

III. 専門看護師をめざす場合

◇成人看護学（急性・重症患者看護学）分野及びがん看護学分野で、専門看護師をめざす場合には、当シラバスの「教育課程の構造図と同<専門看護師教育課程>」を理解し、履修科目を選択してください。

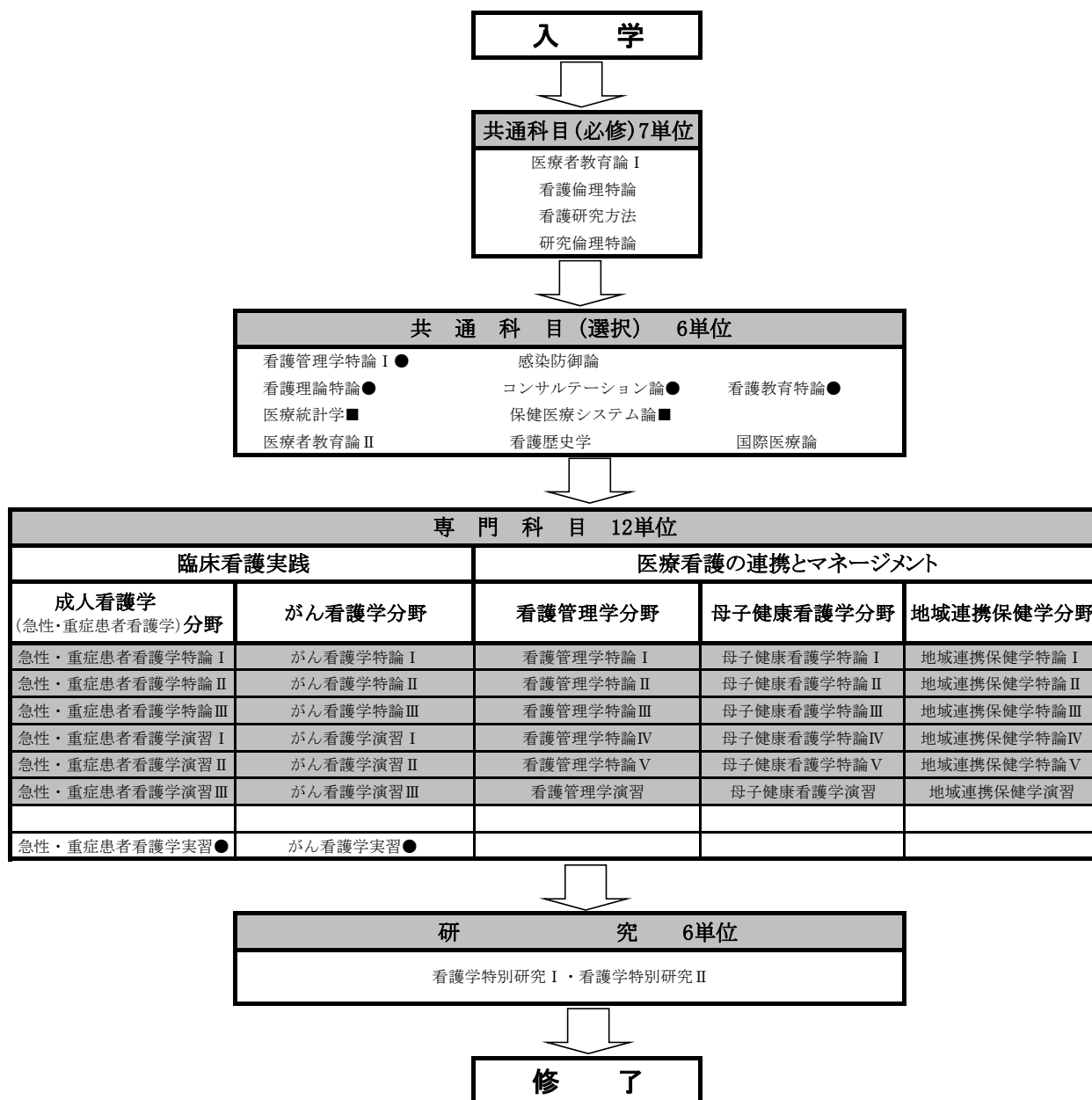
IV. オフィスアワーについて

特定の日時を設定したオフィスアワーは設けないが、授業や研究等に関する質問や将来の進路など個人的な相談を含めて、教員（非常勤教員も含む）に相談したいことがある場合は、下記の方法で実施する。

- ① 講義終了後に、質問や相談があれば教員が受ける。
- ② 教員が電子メールの案内を行っている場合は、メールにて相談日時を予約する。
- ③ 教員の電子メールアドレス等が不明な場合は、事務室が教員へ連絡をとり、連絡等を行う。事務室受付アドレス： nsmaster@jikei.ac.jp

Ⅱ-1 教育課程の構造図

〈 全 体 〉



単位取得において、原則、専攻分野以外の演習科目取得は可能です。

■ : 各分野の必修科目を示す。

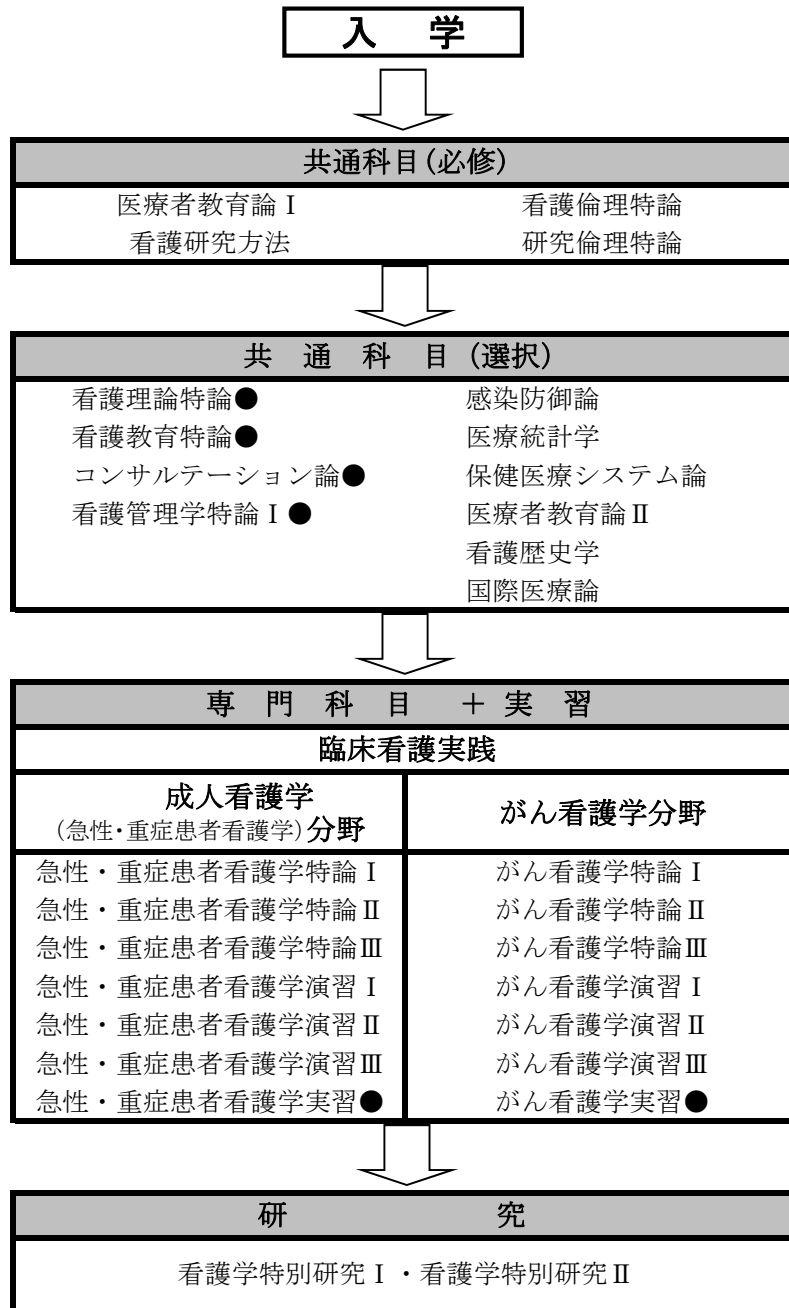
● : 専門看護師を目指す場合は選択必修。(共通科目(選択)からは2科目選択する)

■ : 看護管理学分野、母子健康看護学、地域連携保健学を専攻するものは必修とする。

(注)履修希望状況等を考慮して、閉講する科目もある。

Ⅱ-2 教育課程の構造図

< 専門看護師教育課程 >



●：専門看護師を目指す場合は選択必修とする
共通科目（（選択）からは2科目選択する）

(注)履修希望状況等を考慮して、閉講する科目もある。

教員一覧

共通科目	医療者教育論Ⅰ	櫻井尚子 松藤千弥 三崎和志* 野呂幾久子* 常喜達裕* 沢田貴志**
	看護倫理特論	高橋 衣 手島 恵**
	看護研究方法	北 素子 中山和弘** 久田 満**
	研究倫理特論	櫻井尚子
	看護管理学特論Ⅰ（看護管理学概論）	田中幸子 布施淳子** 中三川厚子**
	感染防御論	堀 誠治* 清田 浩* 堀野哲也* 高野八百子**
	看護理論特論	菊池麻由美 筒井真優美**
	コンサルテーション論	佐藤正美 挟間しのぶ* 高木明子* 久山幸恵** シュワルツ史子**
	看護教育特論	吉田澄恵** 佐藤正美
	医療統計学	真鍋雅史**
	保健医療システム論	櫻井尚子 常喜達裕* 浅沼一成** 星 旦二**
	医療者教育論Ⅱ	福島 統*
	看護歴史学	田中幸子 芳賀佐和子** 酒井シヅ** 川原由佳里** 鷹野朋実**
成人看護学 急性・重症患者看護学	国際医療論	香月毅史 四津里英** 宮本節子** 鈴木英子** 沢田貴志** 徳永瑞子**
	急性・重症患者看護学特論Ⅰ （危機理論）	藤村龍子**
	急性・重症患者看護学特論Ⅱ （フィジカルアセスメント）	藤村龍子**
	急性・重症患者看護学特論Ⅲ （代謝病態生理と治療管理）	藤村龍子**
	急性・重症患者看護学演習Ⅰ （看護援助論Ⅰ：援助関係論、家族看護論を含む）	藤村龍子**
	急性・重症患者看護学演習Ⅱ （看護援助論Ⅱ：看護倫理を含む）	藤村龍子**
	急性・重症患者看護学演習Ⅲ （安楽・緩和ケア援助論）一部がん・管理・地域と共修	藤村龍子** 挟間しのぶ* 小松由佳** 秋山正子** 服部絵美**
がん看護学	急性・重症患者看護学実習	室岡陽子 山口庸子* 挟間しのぶ* 小松由佳** 藤野智子** 新井知子**
	がん看護学特論Ⅰ （がん看護理論）	佐藤正美、望月留加
	がん看護学特論Ⅱ （がん看護に関する病態生理と診断・治療）	佐藤正美 望月留加 内田 満 鈴木正章* 相羽恵介* 下山直人* 青木 学* 矢野真吾* 伊藤達彦* 野木裕子*
	がん看護学特論Ⅲ （がん看護援助論〔理論編〕）	佐藤正美 望月留加
	がん看護学演習Ⅰ （がん看護援助論〔実践編〕）	佐藤正美 望月留加 細川 舞 児玉久仁子** 上杉英生** 菅野かおり** 北田陽子** 小林直子** 久山幸恵** 久米恵江** 細矢美紀**
	がん看護学演習Ⅱ （緩和ケアⅠ）	望月留加 佐藤正美 内田 満 細川 舞
	がん看護学演習Ⅲ （緩和ケアⅡ）一部 成人・地域と共修	佐藤正美 望月留加 細川 舞 角田真由美* 秋山正子** 服部絵美** 渡邊知映**
	がん看護学実習	佐藤正美 望月留加 細川 舞

看護管理学	看護管理学特論Ⅰ (看護管理学概論) 共通科目と共修	田中幸子 布施淳子** 中三川厚子**
	看護管理学特論Ⅱ (労務管理論) 一部 成人と共修	田中幸子 酒井一博**
	看護管理学特論Ⅲ (看護情報管理学概論)	田中幸子 緒方泰子**
	看護管理学特論Ⅳ (看護組織論)	田中幸子
	看護管理学特論Ⅴ (看護政策アセスメント) 一部 地域と共修	田中幸子 小山田恭子**
	看護管理学演習 (看護組織におけるキャリア開発)	田中幸子
母子健康看護学	母子健康看護学特論Ⅰ (女性のライフステージと健康課題: ジェンダー学を含む)	茅島江子 細坂泰子
	母子健康看護学特論Ⅱ (母子相互作用・成長発達・家族看護に関する理論)	茅島江子 高橋 衣 細坂泰子
	母子健康看護学特論Ⅲ (母子支援に関する行政システム)	茅島江子 高橋 衣 細坂泰子 福島富士子**
	母子健康看護学特論Ⅳ (母〔女性〕への援助論)	茅島江子 細坂泰子
	母子健康看護学特論Ⅴ (子ども・その家族への援助論)	高橋 衣
	母子健康看護学演習 (母子支援システム構築)	茅島江子 高橋 衣 細坂泰子
地域連携保健学	地域連携保健学特論Ⅰ (地域連携保健学概論)	櫻井尚子 持尾聰一郎 香月毅史 菊池麻由美 伊達久美子**
	地域連携保健学特論Ⅱ (保健医療システム制度と連携協働)	梶井文子
	地域連携保健学特論Ⅲ (家族と家族看護)	北 素子
	地域連携保健学特論Ⅳ (個人・家族・地域を支える包括ケア)	嶋澤順子
	地域連携保健学特論Ⅴ (健康支援に関する理論と組織マネジメント)	櫻井尚子
	地域連携保健学演習 (組織マネジメントと連携システム) 一部 成人・がん・管理と共修	櫻井尚子 秋山正子** 服部絵美** 小山田恭子**
研究	看護学特別研究Ⅰ	成人看護学(急性・重症患者看護学) 分野 高島尚美** がん看護学分野 佐藤正美 望月留加 内田 満 看護管理学分野 田中幸子 母子健康看護学分野 茅島江子 高橋 衣
	看護学特別研究Ⅱ	地域連携保健学分野 櫻井尚子 北 素子 嶋澤順子 梶井文子 持尾聰一郎 松藤千弥 看護学特別研究導入教育 高木廣文**

*兼任教員 **兼任教員

共 通 科 目

科目名：医療者教育論 I	開講学年：1 年次
英文名：Education for Partnership in Medical Team I	開講学期：前期
担当者：櫻井尚子（科目責任者）、松藤千弥、野呂幾久子、三崎和志 常喜達裕、沢田貴志	単位数：2 単位
	開講形態：講義

科目区分：共通科目

授業目標：高度の看護実践者あるいは教育者・研究者として、適切な学生指導や後輩指導が行えるようになるための医療者教育における基盤となる能力について理解し修得することを目標とする。

授業方法：講義、グループ討議

授業計画：（1 回は 90 分）

回	内 容	担当者
1	医療チームにおける看護師の役割と責務	櫻井尚子
2		
3	在日外国人を対象とした保健医療を支える医療者	沢田貴志
4		
5	研究と臨床の協働、 クリニカル・エビデンス（高木兼寛の医療）	松藤千弥
6	インターネット・リテラシー	常喜達裕
7		
8	論理的思考のための日本語表現	野呂幾久子
9	イノベーション・改善のための討論・会議～第三の道を探ろう	櫻井尚子
10		
11	コールバーグの道徳的発達段階～判断の基盤としての倫理はいかにあるべきか	三崎和志
12		
13	ストレスは、避けるべきか？	櫻井尚子
14	～ストレスを力にかえ、健康で幸福になるには～	
15	医療者教育/共育における基盤	櫻井尚子

準備学習（予習・復習等）：参考図書は事前/事後に購読しておく。

評価方法：出席状況、グループ討議への参加、レポート、リアクションペーパーを総合評価する。

参 考 書：その他の参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

1. レナードLベリー、ケントDセルトマン（古川奈々子訳）. すべてのサービスは患者のために～伝説の医療機関メイヨークリニックに学ぶサービスの核心～. 日本出版貿易株式会社. 2009 年
2. 落合和徳、海渡健 編集. チームステップス（日本版）医療安全-チームで取り組むヒューマンエラー対策. メディカルビュー社：2012 年.
3. 浦島充佳. How to Make クリニカル・エビデンス. 医学書院. 2004 年
4. 松田誠. 脚気をなくした男高木兼寛伝. 講談社. 1990 年
5. 吉村昭. 白い航跡 上・下 . 講談社 1991 年
6. スティーブン.R. コヴィー（フランクリン. コヴィー. ジャパン訳）. 第3の案 成功者の選択. キングベアー出版. 2012 年
7. 田嶋幸三. 「言語技術」が日本のサッカーを変える. 光文社新書. 2007 年
8. 瀧本哲史. 武器としての交渉思考. 星海社新書. 2012 年

科目名 : 看護倫理特論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Theories & Researches Nursing Ethics	開講学期 : 前期
担当教員 : 高橋 衣 (科目責任者)、手島 恵	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 看護実践において看護師が直面する倫理的ジレンマや課題を抽出し、高度看護実践者として解決するための倫理的調整能力を培う

授業方法 : 講義、グループ討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	これまでの看護実践での倫理的場面について振り返り本講義の導入を行う	高橋 衣
2	倫理的に振る舞うということについて 看護実践の倫理的分析と倫理的意思決定モデル 基本的な臨床倫理原則 (清水論) 倫理的意思決定のプロセス (情報共有から合意へ)	高橋 衣
3	看護倫理の成立と基本原理、看護倫理綱領と歴史的背景—医療の高度化・複雑化・科学化、患者の権利尊重・保健医療福祉への関心の高まり、情報公開・医療事故情報への対処、教育の高度化	手島 恵
4		
5	看護専門職としての取り組み、責務、離床判断にかかわる倫理的要因— 患者、医療者の要因・エビデンス・強制	手島 恵
6		
7	看護実践に関わる倫理的課題への対応 看護師の価値観と法律と倫理、道徳について 看護学における倫理とは、道徳的によい看護師とは、道徳的によい仕事とは	手島 恵
8		
9	倫理的感性を磨き、気付く力・考える力を育てるには① 臨床倫理検討シートの理解 (ステップ①～ステップ③) 倫理的感性を磨き、気付く力・考える力を育てるには② 臨床倫理検討シートの活用 (各自の事例をシートを活用し検討する)	高橋 衣
10		
11	倫理的感性を磨き、気付く力・考える力を育てるには② 臨床倫理検討シートの活用 (各自の事例をシートを活用し検討する)	高橋 衣
12		
13	倫理的感性を磨き、気付く力・考える力を育てるには③ (事例検討発表会) まとめ	高橋 衣
14		
15		

準備学習 (予習・復習等) : 事前に、看護実践の中で直面している倫理的ジレンマや課題を抽出し、参考図書を購読しておくこと。

評価方法 : 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書 :

1. サラ・フライ (1998) 倫理の概要, インターナショナル・ナーシング・レビュー, 21 (5) , 18-30.
2. 手島恵 (2004) 編集委員の目 なぜ倫理綱領・倫理指針なのか, 看護, 9 月号, 100
3. 小西恵美子, 和泉成子 (2006) 患者からみた「よい看護師」: その探求と意義, 生命倫理, 16 (1), 46-51.
4. サラ T. フライ 2002 (2005) 看護実践の倫理 (第 2 版) 日本看護協会出版会
5. アン J. デイビス他 看護倫理を教える・学ぶ—倫理教育の視点と方法 2002
6. 「看護者の倫理綱領」(日本看護協会、2003)
7. ICN 看護師の倫理綱領」(国際看護師協会、2000)
8. 平成 15 年度版看護白書 (pp. 3-93), 日本看護協会出版会
他、担当教員より事前に提示する。
9. 石垣靖子, 清水哲郎 (2012) 臨床倫理ベーシックレッスン (第 2 版) 日本看護協会出版会
他、担当教員が事前に提示する。

科目名：看護研究方法	開講学年：1年次
英文名：Advanced Nursing Research	開講学期：前期
担当教員：北 素子（科目責任者）、中山和弘、久田 満	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：共通科目

授業目標：各専門分野における看護実践上の課題を解決するために、適切な方法を用いて研究を行い、さらにその結果を看護実践に活用する能力を身につけることを目標にする。

授業方法：講義、プレゼンテーション、グループ討議、PCを用いた統計分析

授業計画：（1回は90分）

回	内 容	担当者
1	臨床看護実践と研究の意義 研究過程の概観と研究方法	北 素子
2	量的研究論文・質的研究論文のクリティーク（枠組みと方法）	
3	質的研究方法を用いた研究（GT法を用いた研究論文のクリティーク）	北 素子
4	質的研究方法を用いた研究（現象学的・解釈学的方法を用いた研究論文のクリティーク）	
5	質的研究方法を用いた研究（エスノグラフィーを用いた研究論文のクリティーク）	北 素子
6	質的研究方法を用いた研究（質的・記述的研究方法を用いた研究論文のクリティーク）	
7	質的研究のデータ収集と分析	北 素子
8	質的研究のデータ収集と分析	
9	看護における統計学の役割と研究デザイン	中山和弘
10		
11		
12	看護における心理尺度の活用法	久田 満
13		
14	量的研究方法を用いた研究（仮説検証型研究の論文クリティーク）	北 素子
15	まとめ	

準備学習（予習・復習等）：初回授業で配布する文献リストを参考に、必要なものを事前に購読すること。

評価方法：出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名：研究倫理特論	開講学年：1 年次
英文名：Advanced Research Ethics	開講学期：通年
担当者：櫻井尚子（科目責任者）	単位数：1 単位
	開講形態：講義

科目区分：共通科目

授業目標：看護研究を行う上で基盤となる研究倫理を学修し、適切な行動規範をもち研究できる能力を獲得する。

授業方法：講義、プレゼンテーション、討議、

教材として CITI-Japan Program e-learning システム を使用する。

授業計画：（1 回は 90 分）

回	内 容	担当者
1	医療倫理と研究、 CITI-Japan Program、受講手順、学修方法 について	櫻井尚子
2	・責任ある研究行為について ・研究における不正行為	櫻井尚子
3	・データの扱い ・共同研究のルール、 ・利益相反 ・オーサーシップ	櫻井尚子
4	・盗用 ・社規への情報発信 ・ピア・レビュー ・メンタリング ・公的研究資金の取り扱い	櫻井尚子
5	・生命倫理学の歴史と原則、そしてルールづくりへ ・人を対象とした医学系研究に関する倫理指針 ・研究倫理審査委員会による審査	櫻井尚子
6	・研究における個人に関わる情報の取り扱い ・研究におけるインフォームド・コンセント ・特別な配慮を要する研究対象者	櫻井尚子
7	倫理委員会申請について	櫻井尚子

準備学修（予習・復習など）：

事前に参考文献を熟読しておく。

プレゼンテーション担当者は、CITI-Japan Program の単元を講読し参考資料とする。

授業終了直後に CITI-Japan Program 単元箇所のクイズを各自実施する。

評価方法：必要条件として、CITI-Japan Program 医学研究者標準コース（15 単元）を実施し、CITI JAPAN プロジェクトから、修了証の発行を得る。

その上で、授業参加状況、プレゼンテーション、討議、を総合評価する。

参考文献：1. 神里彩子, 武藤香織. 医学・生命科学の研究倫理ハンドブック. 東京大学出版会. 2015 年

科目名：看護管理学特論Ⅰ (看護管理学概論)	開講学年：１年次
英文名：Advanced Nursing Administration	開講学期：前期
担当教員：田中幸子（科目責任者）、布施淳子、中三川厚子	単位数：２単位
	開講形態：講義

科目区分：看護管理学分野 共通科目

授業概要：保健医療福祉に携わる人々との調整を行い、看護管理に携わる看護職と連携して高度看護実践者・管理者として活動するために、看護組織のあり方、看護経営と業務管理・情報管理のあり方を学ぶ。また、看護制度・政策の現状を理解し看護職人材の確保と有効な活用策を探究する。

授業の進め方：講義、討議、プレゼンテーション

授業計画：（１回は90分）

回	内容	担当者
1	看護管理とは	田中幸子
2	医療提供体制の動向	田中幸子
3	看護組織論その１：看護の組織構造と管理的諸機能、組織論	田中幸子
4	看護経営経済論その１：自由経済市場と計画経済市場	中三川厚子
5	看護経営経済論その２：医療経済の特殊性、病院の経営	中三川厚子
6	看護組織論その２：組織を活性化するリーダーシップ	田中幸子
7	看護制度・政策論：看護制度の歴史と政策決定過程	田中幸子
8	看護と法：森永ヒ素ミルク事件と看護	田中幸子
9	看護人的資源活用論その１：看護職の需給の推移、看護師等の人材確保に関する法律	田中幸子
10	看護人的資源活用論その２：看護専門職の人材育成・キャリア開発	田中幸子
11	看護情報管理論：看護と個人情報の保護	田中幸子
12	看護業務管理論その１：医療安全管理	布施淳子
13	看護業務管理論その２：医療安全管理	布施淳子
14	看護管理に関するプレゼンテーション１	田中幸子
15	看護管理に関するプレゼンテーション２	田中幸子

準備学習（予習・復習）：授業で配布した資料を熟読しながら最終プレゼンテーションの準備を進めていく。

評価方法：出席状況（50%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（30%）を総合して評価する。

参考書：参考文献については適宜提示する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16：20～18：00、非常勤講師は授業終了後に受ける。

科目名 : 看護理論特論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Advanced Nursing Theory	開講学期 : 通年
担当教員 : 菊池麻由美 (科目責任者)、筒井真優美	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。卓越した高度看護実践の基盤となる看護に関する諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用を検討する。

授業方法 : 講義、文献講読、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	オリエンテーション	筒井真優美 菊池麻由美
2	看護論の概観、看護科学、看護学との関連	
3	理論と概念、理論の評価 (分析・クリティーク)	
4	理論の分析①	菊池麻由美
5	理論の分析②	菊池麻由美
6	理論の分析③	菊池麻由美
7	中間報告	筒井真優美 菊池麻由美
8	中間報告	
9	実践における課題と理論①	菊池麻由美
10	実践における課題と理論②	菊池麻由美
11	理論の評価①	菊池麻由美
12	理論の評価②	菊池麻由美
13	実践における課題から看護理論を捉える 課題発表①	筒井真優美 菊池麻由美
14	実践における課題から看護理論を捉える 課題発表②	
15	看護学における看護理論 まとめ	

準備学習 : 『事前に筒井真優美編集 (2015) . 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院. 』の [序] および [第一部 : 看護理論の発展と理論評価の基本となるもの] を読んで授業に臨むことが好ましい。

評価方法 : プレゼンテーション 60%、グループ討議への参加 40%等を総合評価する。

参 考 書 : 1. 筒井真優美編集 (2015) . 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院
2. 筒井真優美編 (2008) . 看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用. 南江堂
その他、担当教員より随時に明示する。

科目名 : コンサルテーション論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Consultation Theory	開講学期 : 後期
担当教員 : 佐藤正美 (科目責任者)、挟間しのぶ、高木明子、久山幸恵 シュワルツ史子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 看護職を含むケア提供者に対して実践的な問題を解決するのを助けるためのコンサルテーションの理論・概念を理解し、組織や個人を対象にした効果的なコンサルテーション、コンサルタントとしての役割機能と評価について考察する。また、高度看護実践者、専門看護師としてのコンサルテーションの実践を理論に則って探究し事例検討を通して理解する。

1. コンサルテーションの基本概念
コンサルテーションとスーパービジョンとの相違
2. コンサルテーションのプロセス
3. コンサルタントの役割
4. コンサルテーションにおける対人関係
5. コンサルタントの限界

授業方法 : 講義、演習、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	CNS におけるコンサルテーションの理論と実際、コンサルテーションのプロセス	佐藤正美
2	コンサルテーションの実施 患者中心のコンサルテーションの実際	久山幸恵
3	コンサルティ中心の事例のコンサルテーションの実際 組織のコンサルテーションの実際、 コンサルティ中心の組織のコンサルテーションの実際	
4	コンサルテーションの実際	シュワルツ史子
5	組織の中での CNS の活用の実際や課題	
6	さまざまな看護専門分野におけるコンサルテーション	挟間しのぶ
7	クリティケルケア CNS の役割の実際	
8	CNS のコンサルテーションの実際	挟間しのぶ
9	事例分析を通して	
10	さまざまな看護専門分野におけるコンサルテーション	高木明子
11	精神看護専門看護師の役割の実際 事例検討を通して	
12	さまざまな看護専門分野におけるコンサルテーション	高木明子
13	事例検討を通して コンサルテーションの契約、実施、評価のプロセスと記録用紙の作成フィードバック	
14	コンサルテーションの実践へ向けた自己の課題の探求	佐藤正美
15		

準備学習 (予習・復習等) : 各施設におけるコンサルテーション事例やコンサルテーションが必要となる課題に関する記録を作成すること

評価方法 : 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

- 参 考 書 : 1. Gerald Caplan(1970):The Theory and Practice of Mental Health Consultation, Basic Books, INC
2. EH シャイン著、稲葉元吉他訳 (2002) : プロセス・コンサルテーション、白桃書房
 3. Paytricia R. Underwood 著、勝原裕美子訳 (1995) : コンサルテーションの概要ーコンサルタントの立場から、インターナショナルナーシングレビュー、18(5) : 4-12
 4. 野末聖香編 : 第 3 章 コンサルテーション、リエゾン精神看護ー患者ケアとナース支援のために、p. 207-255, 医歯薬出版, 2006.
 5. 日本専門看護師協議会監修 : 第 8 章 コンサルテーションの技法, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. p267-291, 日本看護協会出版会, 2009.

科目名：看護教育特論	開講学年：1年次
英文名：Advanced Nursing Education	開講学期：後期
担当教員：吉田澄恵（科目責任者）、佐藤正美	単位数：2単位
	開講形態：講義

授 業 概 要：高度看護実践者としての活動を円滑に行っていく上で不可欠な看護学教育に関する制度、理論モデルを、基礎教育・継続教育を展望しながら検討する。さらに、看護ケアの質の維持・向上のための自己教育と看護職への教育的アプローチについて、現状と課題を検討する。それらを通して、高度看護実践者としての看護教育における役割機能について、一人ひとりの見解を見出し、課題レポートにまとめる。

授業の進め方：講師による体系的な講義に加え、各自の関心にそったプレゼンテーションを行い、教師－学生関係を超えて、看護職として看護教育への責任の一端を担う者として交流する。その相互作用の中から、省察し、対話する教育の場を体験的に理解していくことを重視する。

授 業 計 画：（1回は90分）

回	内 容	担当者
1	看護学教育と看護職のキャリア	吉田澄恵 佐藤正美
2	看護職養成制度と高度看護実践者	吉田澄恵
3	看護教育への理論・モデルの活用	吉田澄恵
4		
5	病院組織における現任教育の現状と課題	佐藤正美 ゲストスピーカー 鈴木真由美
6		
7	看護ケアの質の維持・向上のための継続的教育プログラムの開発	佐藤正美 ゲストスピーカー 鈴木真由美
8		
9	専門性の維持と統合力を培う高度実践看護者としての自己教育	佐藤正美 ゲストスピーカー 山内英樹
10		
11	ケアの質の維持・向上のための看護職への教育的支援の方法	佐藤正美 ゲストスピーカー 山内英樹
12		
13	臨床の場における看護教育	吉田澄恵
14		
15	高度看護実践者としての看護教育における役割機能	吉田澄恵 佐藤正美

成績評価方法：出席状況 30%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 30%を総合して評価する。

教科書・参考書：

1. グレグ美鈴・池西悦子編 「看護教育学. 看護を学ぶ自分と向き合う」 南江堂 2009年
 2. マルカム・ノールズ著 堀 薫夫 三輪建二 監訳「成人教育の現代的実践」 鳳書房 2002年
 3. ジャック・メジロー著 金沢睦・三輪建二監訳 「おとなの学びと変容. 変容的学習とはなにか」 鳳書房 2012年
 4. パトリシア・ベナー他著 早野 ZITO 真佐子訳「ベナー ナースを育てる」 医学書院 2011年
 5. 藤岡完治著 「関わることへの意志. 教育の根源」 国土社 2000年
- その他、必要時参考文献・資料について紹介をする。

受講上の注意：履修前に履修方法、プログラム企画・プレゼンテーションについてオリエンテーションを行う。

科目名 : 医療統計学	開講学年 : 1 年次
英文名 : Biostatistics in Practice	開講学期 : 前期
担当教員 : 真鍋雅史	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 看護統計学、および医学統計学に関連する基礎を学び、SPSS（統計解析ソフト）を用いて実際の看護関連データの分析を行う。

授業方法 : 講義と演習を組み合わせで行う。

統計学あるいは統計的な判断は、医療看護分野における研究はもちろん科学的な分析には極めて有益な方法論の体系であるが、一方で、そのとっつきにくさゆえに統計的な判断を回避したり、あるいは誤った統計的な判断も少なくない。（例えば、「この場合はこの手法」「この統計量はこうであればよい」といった暗記型の統計的な判断は、間違いを起こすことが非常に多い。）

とっつきにくさの最大の原因は、数学的な表現であり、統計学の初学者は、当初から数学的な表現に悩まされることになる。しかし、数学的な表現は、必ずしも統計的な判断の本質ではなく、あくまでも手段であって、単に数式を追うことよりも、統計学の考え方を正しく理解することが何よりも重要である。（数学的な表現あるいは厳密性は、分析者が分析を重ねていくうちに自ら習得していくべきものであろう。）

本講義は、以上のような問題意識から「直感的に」統計学を理解し、医療看護分野の研究を進めていく中で統計的に判断する能力を習得することを目指す。事前の数学的な知識は問わず、講義でも極力数学的な表現を回避し、統計学の基本的な考え方を直感的に理解できるよう講義を進めていく。

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	イントロダクション	真鍋雅史
2	記述統計（１）	
3	記述統計（２）	
4	平均値の差の検定：講義（１）	
5	平均値の差の検定：講義（２）	
6	平均値の差の検定：演習（１）	
7	平均値の差の検定：演習（２）	
8	回帰分析：講義（１）	
9	回帰分析：講義（２）	
10	回帰分析：演習（１）	
11	回帰分析：演習（２）	
12	ロジスティック回帰分析：講義（１）	
13	ロジスティック回帰分析：講義（２）	
14	ロジスティック回帰分析：演習（１）	
15	ロジスティック回帰分析：演習（２）	

準備学習（予習・復習） : 事前の知識は問わない。

評価方法 : レポート課題によって評価する。

参 考 書 : 別途指定する。

科目名 : 保健医療システム論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Medical Health System Theory	開講学期 : 後期
担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)、常喜達裕、浅沼一成、星旦二	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 保健医療システムにかかわる基本的概念であるヘルスプロモーションの理念を深く理解し、実践の場での課題への方略を探究する基盤を養う。

授業方法 : 講義、プレゼンテーション、討議

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	日本の保健医療システムの現状と課題	櫻井尚子
2	保健医療計画と地域連携パス 行政からみた保健医療システムの現状と課題	浅沼一成
3		
4	健康規定要因と社会格差	星 旦二
5		
6	病院経営と地域連携	常喜達裕
7		
8	世界の保健医療の潮流 ヘルスプロモーション	櫻井尚子
9		
10	ヘルスプロモーションの理念と看護実践 地域の社会資源とソーシャルキャピタル	櫻井尚子
11		
12	ヘルスサービスの転換と看護－臨床と教育	櫻井尚子
13		
14	看護職の責務とそれを可能にするシステム	櫻井尚子
15		

準備学習 (予習・復習等) : プレゼンテーション担当箇所を事前に調べ、身近な具体例を挙げて説明し、自らの考えをいれてプレゼンテーションできるように準備する。

なお、参考図書は事前に購読しておく。

評価方法 : 出席状況、プレゼンテーション、討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書 : 下記他は、必要時参考文献、資料を提示する。

1. 国民衛生の動向 2011/2012 厚生指標. 厚生統計協会
2. Richard Wilkinson and Michael Marmot. Social determinants of health. the solid facts. Second edition. WHO regional office for Europe. *WHO の Web からダウンロードしてください。
高野健人 (監訳) 健康の社会的決定要因. WHO 健康都市研究協力センター. 2002 年
3. National Cancer Institute. Theory at a Glance A Guide for Health Promotion Practice. 2005.
<http://www.cancer.gov/PDF/481f5d53-63df-41bc-bfaf-5aa48eeda4d/TAAG3.pdf>
福田吉治、他 (監修) 一目でわかるヘルスプロモーション 理論と実践ガイドブック. 2008 年. 国立保健医療科学院.

科目名：医療者教育論 II	開講学年：2 年次
英文名：Education for Partnership in Medical Team II	開講学期：前期
担当者：福島 統（科目責任者）	単位数：1 単位
	開講形態：講義

科目区分：共通科目 選択

授業目標：高度の看護実践者あるいは研究者として、適切な学生指導や後輩指導が行えるようになるために医療者教育についての基本原理を理解することを目標とする。

授業方法：講義、グループ討議（World Café、他）

博士課程と共修、 会場：大学 1 号館 7 階実習室

授業計画：（1 回は 90 分）

回	内 容	担当者
1	学修成果基盤型教育 (Outcome-based Education : OBE) : 「知っていること」と「できること」とは異なる。今の教育は、学習者に学修成果を求め、知識基盤型社会におけるイノベーションを引き起こす能力を求めている。農業労働、工場労働そして知識を用い労働へ変化するとき、社会に貢献する人材が必要とされている能力とは何かを論ずる。	福島 統
2		
3	学習理論（行動主義、社会的構成主義から状況論への 変遷）： 1950 年代の行動主義は実験心理学をベースにした学習理論であった。1970 年代にコンピュータサイエンスの進歩とともに、認知心理学の成果を踏まえた社会的構成主義が提唱され、さらに 1990 年代には 文化人類学的観察研究から認 知的徒弟制度や正統的周辺参加などの状況論の考え方が整理された。この状況論はその後、チーム学習理論への展開を示している。この学習理論の変遷について論じる。	福島 統
4		
5	成人学習理論： 専門職業職者にとってなくてはならない能力として、生涯学習能力がある。この能力の基盤は、自己主導的学習である。自己主導的学習の特徴を、他者（教師）主導的学習と比較し、人間が本来持っている問題解決能力を確認する。仕事の中で学ぶ力は、経験から学ぶ力でもある。Kolb (1984 年) が提唱した経験学習の理論を論じることで、内省的実践家が持つべき学習能力について論ずる。	福島 統
6		
7	学習支援、自律性支援： 学習における内発的動機付けと外発的動機付けを比較し、その学習効果の違いを示す。内発的動機付けによる行動変容をいかに起こすかが患者支援にとって重要である。成果のある患者支援を行うための自律性支援についての研究結果を論じる。また自律性支援を行うために必要なコーチングスキルについても言及する。	福島 統
8		
9	医師の質保証 (Medical Regulation) : 医学教育の目的は患者安全にある。したがって、卒前、卒後研修、生涯学習の時間軸での医師の質保証を行っていく必要がある。また、わが国では患者安全として、医療法第 6 条で規定された「医療安全支援センター」や 2015 年 10 月から施行された「医療事査・支援センター」などの制度がある。わが国でも患者安全の在り方について論じる。	福島 統

準備学習（予習・復習等）：各講義終了時にリアクションペーパーを提出する。

参考図書が掲示されている場合は事前/事後に購読しておく。

評価方法：以下の条件が単位認定に必要である。

1. 出席回数が大学院の規則にそって充足していること。
2. 討論授業でグループ討論に参加し、使った時間に見合った学習成果をあげること。
3. レポートの提出と大学院生として相当なレポート内容であること。講義時間数は、1.5 時間×9 コマ=13.5 実時間である。1 単位とは 45 学習時間に見合った学習を求めているので、各講義コマに対して 1 時間の予習・復習を求め（これで 13.5 時間+9 時間=22.5 時間）、さらにレポートの質として、22.5 時間の学習を行ったものを求める。従って、レポートの質として、22.5 時間の自己学習を行ったレベルをレポートの学各判定基準とする。なお、レポートの再提出の機会は 1 回のみとする。

講義者への連絡：メールでお願いします。fukushima@jikei.ac.jp

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名：看護歴史学	開講学年：2年次
英文名：Nursing History	開講学期：前期
担当教員：田中幸子（科目責任者）、芳賀佐和子、酒井シヅ、川原由佳里 鷹野朋実	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：共通科目

授業目標：日本において近代的な看護が始まった経緯とその発展過程を、歴史的研究方法を用いて探求し、史実から学ぶ意味を考究する

授業方法：講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画：（1回は90分）

回	内容	担当者
1	歴史を知る・学ぶ意義、方法	田中幸子
2	戦争と看護	川原由佳里
3		
4	医療における歴史研究の意義	酒井シヅ
5		
6	日本における近代看護教育	芳賀佐和子
7		
8	保良せきの看護実践と活動	
9	森田正馬と「根岸病院看護法」	
10	フローレンス・ナイチンゲールと日本の看護	
11		
12	オーラルヒストリー	鷹野朋実
13		
14	占領期における日本の看護政策立案過程	田中幸子
15	看護の歴史と未来	

準備学習（予習・復習等）：授業中に提示された参考書を熟読し復習する。

評価方法：出席状況、レポート、討議参加度、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：参考書及び文献は、随時提示または配布する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：毎週火曜日もしくは授業終了後、非常勤講師は、授業終了後に質問を受けます。

科目名 : 国際医療論	開講学年 : 2 年次
英文名 : International Health & Welfare	開講学期 : 前期
担当教員 : 香月毅史 (科目責任者)、四津里英、宮本節子、鈴木英子 沢田貴志、徳永瑞子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : ①世界の医療を知るための研究手法、②世界各地の医療制度の特徴、③アジアを市場とした医療ツーリズムの現状、④現地に赴く医療と看護支援・連携の在り方、⑤日本に居住する外国人の健康支援のそれぞれについて概説し、グローバルな視点で医療・看護の在り方を探求する。

授業方法 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	医療のグローバル化とは WHO の指針	香月毅史
2	世界の医療 (ハンセン病)	四津里英
3	世界の医療 (ハンセン病)	四津里英
4	海外から見た日本の医療	宮本節子
5	外国人看護師	宮本節子
6	医療ツーリズム	宮本節子
7	世界の医療を知るための研究手法 1	鈴木英子
8	世界の医療を知るための研究手法 2	鈴木英子
9	日本に居住する外国人の健康支援 1	沢田貴志
10	日本に居住する外国人の健康支援 2	沢田貴志
11	日本に居住する外国人の健康支援 3	沢田貴志
12	日本に居住する外国人の健康支援 4	沢田貴志
13	現地に赴く医療と看護支援・連携	徳永瑞子
14	派遣する国と受ける国 1	徳永瑞子
15	派遣する国と受ける国 2	徳永瑞子

準備学習 (予習・復習等) : 各自の研究課題と国際医療の接点について想起し意識化しておくこと。授業の中で扱う地域、疾患の現状と問題点について基本的な知識を持つておくこと。

成績評価方法 : 出席状況、レポート、プレゼンテーションを総合して評価する。

参 考 書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 感染防御論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Infectious Diseases & Infection Control	開講学期 : 後期
担当教員 : 堀 誠治 (科目責任者)、清田 浩、堀野哲也、高野八百子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 共通科目

授業目標 : 医療の進歩、高齢化などにより、病院内のみならず、老人保健施設、在宅での易感染性宿主が増加している。一方、耐性菌の増加、感染症のグローバル化に伴い、感染症に対する理解、その防止対策に関する知識と技能は、看護の上で必要かつ欠くことのできないものとなっている。ここでは、感染症・感染症治療並びに感染防御における最新の知識・技能を理解するとともに、看護現場における感染症治療・感染防御の問題点を抽出し、その解決法を探究する。

授業方法 : 講義、プレゼンテーション、ディスカッション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	感染症総論―感染症の捉え方― 感染症の診断と診断法 (その落とし穴)	堀 誠治
2	生体防御機構と感染	堀野 哲也
3	呼吸器感染症の特徴とその対策	堀 誠治
4	院内感染とその対策	堀 誠治
5	外科感染症の特徴とその対策	清田 浩
6	性感染症・尿路感染症の特徴とその対策	清田 浩
7	感染看護専門看護師の役割と活動	高野八百子
8	院内感染サーベランス 1	高野八百子
9	院内感染サーベランス 2	高野八百子
10	易感染性患者のケア 1	高野八百子
11	感染症化学療法とその問題点―抗微生物薬の特徴と問題点、最新の話題―	堀 誠治
12	感染症化学療法その問題点―耐性菌対策と最新の抗微生物薬投与方法―	堀 誠治
13	易感染性患者のケア 2	高野八百子
14	易感染性患者のケア 3	高野八百子
15	プレゼンテーションとディスカッション、まとめ	堀 誠治

準備学習 (予習・復習等) : 講義は、専門家と少人数での講義となる。講義内容に沿って、日頃疑問に思っていることなどを整理して講義に出席することが望ましい。

評価方法 : 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書 : 教科書・参考書はとくに指定しないが、参考文献・資料などは必要に応じて講義中に示される。

專 門 科 目

科目名：急性・重症患者看護学特論Ⅰ (危機理論)	開講学年：1年次
英文名：Advanced Acute Nursing Care	開講学期：前期
担当教員：藤村龍子(科目責任者)	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

授業目標：危機状況下における人間の反応を総合的に捉える科学的アプローチの基盤となる理論の原理や実践への活用について探求する。さらに、衝撃的な体験に対しての回復過程やそれを促す専門的援助方法の文献検討を通じて、健康危機状況における人間の内的世界や人間存在価値や意味についても認識を深める。

授業方法：危機理論・ストレスコーピング理論開発の源泉、諸理論の看護実践への活用の可能性について院生のプレゼンテーションや事例を通して検討する。

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	急性期看護学概論：APNに求められる能力とは 自己の看護実践の経験を語る	藤村龍子
2	理論の実践への適用 概念モデル・看護理論・中範囲理論	藤村龍子
3	自己の看護実践をリフレクションする 事例検討	藤村龍子
4	自己の看護実践をリフレクションする 事例検討	藤村龍子
5	自己の看護実践をリフレクションする 事例検討	藤村龍子
6	自己の看護実践をリフレクションする 事例検討	藤村龍子
7	高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ① 理論：選択した中範囲理論プレゼンテーション	藤村龍子
8	高度ストレス状況にある患者ケアに活用できる理論 ② 理論：選択した中範囲理論プレゼンテーション	藤村龍子
9	高度ストレス状況にある患者ケアに活用できる理論 ③ 理論：選択した中範囲理論プレゼンテーション	藤村龍子
10	高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ④ 理論：選択した中範囲理論プレゼンテーション	藤村龍子
11	事例検討：関心のある理論を選択して、理論基盤にある概念、特徴、健康危機状況下にある患者へ活用することの有用性について検討	藤村龍子
12	事例検討：患者の看護に活用することへの有用性について検討	藤村龍子
13	事例検討：実践事例プレゼンテーション	藤村龍子
14	事例検討：実践事例プレゼンテーション	藤村龍子
15	事例検討：実践事例プレゼンテーション 学修のまとめ	藤村龍子

準備学習：臨床実践における理論の活用について、経験を想起し記録しておくこと。

評価方法：プレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。

参考書：1. Patricia G.Morton, Dorrie K.Fontaine:CRITICAL CARE NURSING A Holistic Approach, 10th Edition, Lippincott Williams & Wikins 2012
2. リチャード・ラザルス, 本明寛監訳:ストレスの心理学, 実務教育出版, 1991
3. Hamric Spross Hanson:Adnanced Practice Nursing 5th ED, Saunders, 2012
4. 黒田裕子:よくわかる中範囲理論, 学研, 2009 必要な場合、担当教員より事前に指定・提示する。

科目名 : 急性・重症患者看護学特論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Physical Assessment for Acute Patients	開講学期 : 前期
担当教員 : 藤村龍子 (科目責任者)	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業目標 : クリティカルケア・集中治療を必要とする患者の生体侵襲による生理学的変化を踏まえた、生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みを理解し、高度専門職としてのフィジカルアセスメントの技法を修得する。さらに、客観的に開発されている臨床判断のためのガイドラインも活用して臨床実践能力を高める。

授業方法 : 臨床判断能力を高めるために、具体的な観察技術、全身の見方、系統的フィジカルアセスメントの実際を、講義・シミュレーションを含めた演習を通して修得できるように進める。

授業計画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	クリティカルケアにおける観察/フィジカルアセスメントの重要性と特徴	藤村龍子
2	重症・集中治療を受ける患者の生活行動のアセスメント : アセスメントツールとは、系統的フィジカルアセスメントとは	藤村龍子
3	重症・集中治療を必要とする患者の主要なフィジカルアセスメント ① 呼吸機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント	藤村龍子
4	② 演習	藤村龍子
5	重症・集中治療を必要とする患者の主要なフィジカルアセスメント ③ 循環・心機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント	藤村龍子
6	④ 演習	藤村龍子
7	技術/事例演習 : 自施設におけるケースのフィジカルアセスメント結果の検討	藤村龍子
8	技術/事例演習 : 自施設におけるケースのフィジカルアセスメント結果の検討	藤村龍子
9	技術/事例演習 : 急変対応に必要なフィジカルアセスメントに基づいた判断や対応についてシミュレーションを通して習得する 例 : 心筋梗塞患者の事例演習	藤村龍子
10		
11	技術/事例演習 : 急変対応に必要なフィジカルアセスメントに基づいた判断やチーム医療を含めた対応や教育方法についてシミュレーションを通して習得する	藤村龍子
12		
13	技術/事例演習 : フィジカルアセスメント結果の検討	藤村龍子
14	技術/事例演習 : フィジカルアセスメント結果の検討	藤村龍子
15	重症・集中治療を必要とする患者のフィジカルアセスメントの重要性	藤村龍子

準備学習 : 自施設における急性・重症患者のフィジカルアセスメントデータおよびそのアセスメントをすること。個人情報保護に留意のこと。

評価方法 : 技術演習の参加状況およびフィジカルアセスメントの演習課題レポートで評価する。

参 考 書 : 1. Lynn S. Bickley, 福井次矢 井部俊子監訳 : ベイツ診察法, メディカル・サイエンス・インターナショナル (9th Edition) 2009

2. NANDA International: NANDA-I 看護診断 定義と分類 2012-2014, 医学書院 2012

3. 早川弘一, 高野照夫, 高島尚美編集 : ICU・CCU看護, 医学書院 2013

4. 稲田英一監訳 : The ICU Book, MEDSi 2001

科目名：急性・重症患者看護学特論Ⅲ (代謝病態生理と治療管理) 英文名：Pathophysiology & Cure Management for Acute Patients 担当教員：藤村 龍子(科目責任者)	開講学年：1年次 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義
---	---

科目区分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

授業目標：重症・集中治療が必要な患者には医学的介入が重要となる。患者・家族中心の治療が進められるように治療環境を総合的に管理するための知識を教授する。主な授業内容として、重症集中治療室における安全管理、治療に多職種が関与することに対する緊急対応システム、身体侵襲が伴う救命救急処置、呼吸・循環管理、鎮静鎮痛管理、代謝管理、創傷管理、等に関する高度実践に必要な知識や技術を教授する。

授業方法：講義形式が中心であるが大学院生とのディスカッションで進める。

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	重症・集中看護ケアの基盤となるE B N：病態生理学を学ぶ重要性	藤村 龍子
2	生命危機に対する治療管理 ①救急患者のみかた	藤村 龍子
3	生命危機に対する治療管理 ②心肺蘇生法の EBM	藤村 龍子
4	生命危機に対する治療管理 ③外傷・中毒	藤村 龍子
5	生命危機に対する治療管理 ⑤呼吸管理	藤村 龍子
6	生命危機に関する治療管理 ④脳神経	藤村 龍子
7	生命危機に対する治療管理 ⑦循環・心機能	藤村 龍子
8	生命危機に対する治療管理 ⑥鎮痛・鎮静	藤村 龍子
9	生命危機に対する治療管理 ⑧緊急検査と緊急手術のマネージメント	藤村 龍子
10	創傷治癒のメカニズム	藤村 龍子
11	創傷のドレッシング	藤村 龍子
12	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ①プレゼンテーション	藤村 龍子
13	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ②プレゼンテーション	藤村 龍子
14	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ③プレゼンテーション	藤村 龍子
15	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ④プレゼンテーション	藤村 龍子

準備学習：自分自身がクリティカルケアや治療時に参考になっているガイドラインや最新の治療指針に関する情報収集をして準備しておくこと。

評価方法：プレゼンテーションや課題レポートで評価する。

参 考 書：1. Hildly M. Schell, Kathleen A. Puntillo 著 井上智子監訳：Q&A で学ぶ重症患者ケア，エルゼビアジャパン，2008
2. BLSヘルスケアプロバイダーインストラクターマニュアル AHA ガイドライン 2010 準拠 American Heart Association
3. ACLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2010 準拠 American Heart Association
4. 島崎修次他監修：救急・集中治療医学レビュー（最新版を） 総合医学社
その他 必要な場合、担当教員より事前に指定・提示する。

科目名：急性・重症患者看護学演習Ⅰ (看護援助論Ⅰ：援助関係論、家族看護論を含む) 英文名：Seminar/Nursing Intervention for Acute Patients & Patient's Family Ⅰ 担当教員：藤村龍子(科目責任者)	開講学年：1年次 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習
---	---

科目区分：成人看護学(急性・重症患者看護学)分野

授業目標：クリティカルケアを必要としている患者は、何らかの要因によって身体を構成する臓器や組織に障害をきたし、適切な医療や高度な看護実践が緊急に行なわれないと生命の危機・死に直結する。この科目では安全・安寧を保証する立場から高頻度に発生する身体機能の恒常性調節を維持するケア及び適切な臨床判断や実践を実現するための理論の活用やチーム医療システムに関する最新の知見を探究する。さらに、言語的コミュニケーション不能な状態の個人とその家族の理解と関わりについても検討する。特に家族看護については事例検討を通して理論的理解を深める。

授業方法：クリティカルケアに活用されている看護介入の分類と理論的背景について解説し、実際の臨床での看護体験や家族看護に関する理論と実践を自らプレゼンテーションすることで関連付けながら検討・探求する。

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	クリティカルケア看護における家族看護 家族看護に関する理論と概要 ・家族に対する援助の実際	藤村龍子
2	クリティカルケア看護における家族看護 家族看護に関する理論と概要 ・家族に対する援助の実際	藤村龍子
3	クリティカルケア患者・家族に活用できるEBNに基づいた看護介入モデル	藤村龍子
4	看護介入モデルの解説と演習	藤村龍子
5	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用① 危機理論	藤村龍子
6	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用② 危機理論	藤村龍子
7	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用① ストレス・コーピング理論	藤村龍子
8	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用② ストレス・コーピング理論	藤村龍子
9	チーム医療による協働性と看護の独自性/自律 クリティカルケア看護師の臨床判断とは	藤村龍子
10	クリティカルケア看護師の臨床判断を育成するための教育的関わり	藤村龍子
11	看護介入モデルの解説と演習 ①早期離床	藤村龍子
12	看護介入モデルの解説と演習 ①早期離床	藤村龍子
13	看護介入モデルの解説と演習 ②プレゼンテーション	藤村龍子
14	看護介入モデルの解説と演習 ②プレゼンテーション	藤村龍子
15	看護介入モデルの解説と演習 ③プレゼンテーション	藤村龍子
16	看護介入モデルの解説と演習 ③プレゼンテーション	藤村龍子
17	看護介入モデルの解説と演習 ④プレゼンテーション	藤村龍子
18	看護介入モデルの解説と演習 ④プレゼンテーション	藤村龍子
19	急性・重症患者の家族の支援 ① 家族ストレス対処理論	藤村龍子

20	急性・重症患者の家族の支援 ② 家族ストレス対処理論	藤村龍子
21	急性・重症患者の家族の支援 ① 家族システム理論	藤村龍子
22	急性・重症患者の家族の支援 ② 家族システム理論	藤村龍子
23	急性・重症患者の家族の支援 ① 家族発達理論	藤村龍子
24	急性・重症患者の家族の支援 ② 家族発達理論	藤村龍子
25	急性・重症患者の家族の支援 ① 演習	藤村龍子
26	急性・重症患者の家族の支援 ② 演習	藤村龍子
27	急性・重症患者の家族の支援 ③ 演習	藤村龍子
28	急性・重症患者の家族の支援 ④ 演習	藤村龍子
29	看護介入モデルの解説と演習 事例検討	藤村龍子
30	看護介入モデルの解説と演習 事例検討	藤村龍子

準備学習：臨床における看護介入のエビデンスを追究する科目であるため、実践での介入に対する課題やエビデンス等を意識化しておくこと。

評価方法：プレゼンテーションと課題レポートで評価する。

- 参 考 書：1. 鈴木和子，渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践，第4版 日本看護協会出版会，2012
2. 畠山とも子他：家族看護実践センター編著：DVDBOOK 臨床での家族支援Ⅰ・Ⅱ，日本看護協会出版会，2011
3. グロリア プレチック他，早川和生監訳：看護介入 NIC から精選した43の看護介入 第2版，医学書院，2004
4. 中木高夫他訳：看護介入分類 NIC，南江堂，2009

その他、必要な場合、担当教員より事前に指定する。演習課題のプレゼンテーションを自ら実施するために、基本的な資料を検索する

科目名：急性・重症患者看護学演習Ⅱ (看護援助論Ⅱ：看護倫理を含む) 英文名：Seminar/Nursing Intervention for Acute Patients & Patient's Family Ⅱ 担当教員：藤村龍子(科目責任者)	開講学年：1年次 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習
--	---

科 目 区 分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

授 業 概 要：クリティカルケアが必要な状況にある患者・家族の意思決定・自律性に関わる命題について探求する。インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護（アドボカシー）、倫理的課題、コンサルテーションについて医療者の役割と責務の立場や法律家の立場から、判例を通して探求する。特に、生命危機の状況における治療方針の意思決定プロセスに関与する看護の役割に関しても認識を深める。

授業の進め方：クリティカルシンキングスキル、ロジカルシンキングスキルを修得できるように課題を明確にして授業を進める。特に、概念を明確にし、歴史的・社会的変化の視座を重視しながら医療の本質的探究態度を自覚できるようにする。また、患者の人権擁護のためすすんで発言し、最適医療の提供に向けて状況改善の努力をする姿勢を磨くことについて検討する。

授 業 計 画：（1回は90分）

回	内 容	担当者
1	看護の倫理綱領に関する共通課題と倫理的意思決定を巡る課題 現代の先端医療と患者権利を巡る課題を討議	藤村龍子
2	倫理の原則と看護実践上の課題 道徳的判断形成の基盤となる倫理原則の見直しとケアリングの倫理	藤村龍子
3	インフォームド・コンセントの本質と方法論 自律性の概念 言語的説明能力	藤村龍子
4	演習	藤村龍子
5	先端医療を受ける患者・家族ケア ①救命と延命に関わる課題、CNS の役割	藤村龍子
6	先端医療を受ける患者・家族ケア ②APN の役割	藤村龍子
7	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ① Jonsen による看護実践における倫理分析	藤村龍子
8	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ② Jonsen による看護実践における倫理分析	藤村龍子
9	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ③ Jonsen による看護実践における倫理分析	藤村龍子
10	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ④ Jonsen による看護実践における倫理分析	藤村龍子
11	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ⑤ 倫理原則とケアリング倫理による看護実践における倫理分析	藤村龍子
12	倫理的意思決定モデルを活用した文献購読と事例検討 ⑥ 倫理原則とケアリング倫理による看護実践における倫理分析	藤村龍子

13	先端医療を受ける患者・家族ケア	藤村龍子
14	先端医療を受ける患者・家族ケア	藤村龍子
15	意思決定理論、看護倫理のための意思決定 トンプソンの10のステップ	藤村龍子
16	倫理的意思決定に不可欠な構成要素 法的理論の立場	藤村龍子
17	倫理的意思決定に不可欠な構成要素 法的理論の立場	藤村龍子
18	先端医療を受ける患者・家族ケア	藤村龍子
19	先端医療を受ける患者・家族ケア	藤村龍子
20	脳死と臓器移植に関わる倫理的課題と調整の実際	藤村龍子
21		
22	急性期の場における問題解決過程	藤村龍子
23	急性期の医療の場における倫理調整の実際	藤村龍子
24		
25	先端医療を受ける患者・家族ケア ①②脳死と臓器移植に関わる倫理的課題 (事例検討を含む)	藤村龍子
26		
27	急性期の医療の場における倫理調整の実際 (事例検討)	藤村龍子
28		
29	先端医療を受ける患者・家族ケア ③④救命と延命に関わる倫理的課題、等 (事例検討を含む)	藤村龍子
30		

準備学習：倫理的課題を意識化しておくこと。

評価方法：プレゼンテーションおよびディスカッション参加状況で評価する。

- 参考書：1. サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン著 片田範子 山本あい子訳：看護実践の倫理、看護協会出版会, 2005
2. Anne Davis et al 編集, 小西恵美子監訳：看護倫理を教える・学ぶ, 日本看護協会出版会, 2008
3. A Jonsen et al, 赤林 朗他監訳：臨床倫理学, 新興医学出版社, 2006
4. ジョイス E. トンプソン 山本千紗子監訳：看護倫理のための意思決定 10 のステップ, 日本看護協会出版会, 2004
5. 江川幸二, 看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイドー基礎からわかる臨床に活かす倫理調整ー, 三輪書店, 2013

科目名：急性・重症患者看護学演習Ⅲ (安楽・緩和ケア援助論)	開講学年：2年次
英文名：Seminar/Comfort Care For Acute Patients	開講学期：前期
担当教員：藤村龍子(科目責任者)、挟間しのぶ、小松由佳 秋山正子、服部絵美	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

授業目的：クリティカルケア状況にある患者は突然の発病や外傷、手術などによって高度な心身の苦痛を体験する。このような患者には生命の安全が優先されるが、同時に積極的な心身の苦痛緩和を図ることや身体機能を正常に維持することはきわめて重要である。この科目では、生命のみならず人格と生活能力を保護し、安全と安楽・緩和ケアとしての看護介入について探求する。

授業方法：プレゼンテーションおよびディスカッションによってすすめる。

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	急性期・重症患者・家族の苦痛緩和に対する援助 患者・家族が体験する苦痛の特徴と背景 概念分析	藤村龍子
2	急性期・重症患者に対する援助 概念分析から 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ①コンフォートケア	藤村龍子
3	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ②コンフォートケア	藤村龍子
4	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ③コンフォートケア	藤村龍子
5	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ④ End of life care	藤村龍子
6	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑤ End of life care	藤村龍子
7	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑥意思決定上の葛藤	藤村龍子
8	急性期・重症患者に対する援助 プレゼンテーション 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑦意思決定上の葛藤	藤村龍子
9	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法①	藤村龍子
10	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法②	藤村龍子
11	医療チームによる協同的活動 看護の総合的評価①	藤村龍子
12	医療チームによる協同的活動 看護の総合的評価②	藤村龍子
13	看護実践と看護の動向 卓越した看護実践（臨床判断から臨床論証を意識的に行う）①	藤村龍子
14	看護実践と看護の動向 卓越した看護実践（臨床判断から臨床論証を意識的に行う）②	藤村龍子
15	急性期・重症患者に対する援助 緩和ケア① *地域連携保健学分野と共修	秋山正子
16	急性期・重症患者に対する援助 緩和ケア② *地域連携保健学分野と共修	秋山正子
17	急性期・重症患者に対する援助 緩和ケア方法 事例検討① *地域連携保健学分野と共修	服部絵美
18	急性期・重症患者に対する援助 緩和ケア方法 事例検討② *地域連携保健学分野と共修	服部絵美

19	クリティカル状況にある患者のチーム医療による急変対応能力についてシミュレーションを通して習得する ①医療チームによる協同的活動：シミュレーション技術演習	挟間しのぶ
20	②医療チームによる協同的活動：シミュレーション技術演習	挟間しのぶ
21	③医療チームによる協働的活動：シミュレーション技術演習	挟間しのぶ
22	④医療チームによる協同的活動：シミュレーション技術演習	挟間しのぶ
23	事例検討：痛みのある患者のケア①	小松由佳
24	事例検討：痛みのある患者のケア②	小松由佳
25	事例検討：術後 せん妄患者の緩和ケア① 治療環境の調整を含めたトータルケア	小松由佳
26	事例検討：術後 せん妄患者の緩和ケア② 治療環境の調整を含めたトータルケア	小松由佳
27	事例検討：術後 せん妄患者の緩和ケア③ 治療環境の調整を含めたトータルケア	小松由佳
28	事例検討：術後 せん妄患者の緩和ケア④ 治療環境の調整を含めたトータルケア	小松由佳
29	クリティカルケアにおける生きる力へのサポート レジリエンス①	藤村龍子
30	クリティカルケアにおける生きる力へのサポート レジリエンス②	藤村龍子

準備学習：臨床実践を可視化するための課題を自分の研究課題との関連で考察する。

参考文献は事前に購読しておく。

評価方法：プレゼンテーションおよびレポート、ディスカッション参加状況で総合評価する。

参 考 書：その他必要に応じて、担当教員から事前に指定する。

1. Gkoria M. Bulechek, Joanne C, McCloskey 著 早川和生監訳：看護介入 NIC から精選した看護介入，医学書院，2004
2. John R. Cutcliffe High P. McKenna 著 山田智恵里監訳：看護の重要コンセプト 20，エルゼビア・ジャパン，2008
3. Lorraraine Walker 他著，中木高夫他訳：看護における理論構築の方法，医学書院，2008
4. キャサリン・コルカバ、太田喜久子訳：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008
5. パトリシアベナー他. 早野 zito 真佐子訳：ベナー看護実践における専門性，医学書院，2015

科 目 名：急性・重症患者看護学実習	開講学年：2年
英 文 名：Advanced Practicum of Critical Care Nursing	開講学期：前期・後期
担当教員：室岡陽子（科目責任者）、山口庸子、挾間しのぶ 小松由佳、藤野智子、荒井知子	単 位 数：6単位 開講形態：実習

科 目 区 分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

実 習 概 要：周手術期やクリティカルケア状況にある患者・家族に卓越した専門的な看護援助を提供し、看護ケアの評価ができるようになるために必要な論理的・実践的思考と専門的な看護技術／看護介入について探究する。また、看護チームの中で、問題解決のためにリーダーシップがとれるよう調整能力、教育・相談能力を主体的に修得する。さらに、患者・家族の体験している意思決定上の葛藤、倫理的課題に対するコンサルテーション能力を高め、重症・集中治療を必要としている患者・家族ケアに求められている卓越性や専門性について考察を深める。

実習1

実習目標

〔実践〕

- 1) 健康状態が急激に変化する患者ケアについての適切な臨床判断の実際について、体験を通してコンピテンシーを高めることができる。
- 2) 患者理解やケアに関連した理論や介入モデルを活用して、実際の看護ケアの質を高めることができる。
- 3) 患者の苦痛をより効果的に緩和する援助方法について、創造的な看護の実際を取り入れることができる。
- 4) 日々の実習体験を評価し、専門能力を高めるための自らの課題について、看護チームカンファレンスにおいて課題提起し、解決の方略を見いだすことができる。
- 5) 急性・重症患者看護（家族ケアを含む）に求められる卓越性や専門性・倫理的課題について実習体験を通じて考察を深めることができる。

〔倫理〕

- 1) 患者の人権やプライバシーに関わる倫理的課題を見極め、倫理的葛藤が生じている場면을意図的に取り上げ、その調整・援助方法を考えることができる。

〔研究〕

- 1) 実習体験をケースレポートとしてまとめ、急性・重症患者看護における研究課題を明確にすることができる。
- 2) 実際の看護介入を行なう前に、科学的根拠に基づいた先行研究からその適用性について検討できる。

実習場所 東京慈恵会医科大学附属病院、院生の所属施設、他

実習計画（例）

実習週	実習内容	実習場所
1 週目～2 週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。また、倫理的課題を見極め、その調整方法を考える。 ※上記目標の〔実践〕〔倫理〕の部分	東京慈恵会医科大学附属病院 院生の所属施設、他
3 週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践及び研究活動（課題の明確化）を行う。 ※上記目標の〔実践〕〔研究〕の部分	東京慈恵会医科大学附属病院 院生の所属施設、他

実習2

実習目標

〔実践〕

- 1) 健康状態が急激に変化する患者ケアについての適切な臨床判断の実際について、体験を通してコンピテンシーを高めることができる。
- 2) 患者理解やケアに関連した理論や介入モデルを活用して実際の看護ケアの質を高めることができる。
- 3) 患者の苦痛をより効果的に緩和する援助方法について創造的な看護の実際を取り入れることができる。

〔教育〕

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者としての教育的機能をはたすために、看護チームメンバーに対し、受け持った患者の看護実践モデルを提示することができる。

〔相談〕

- 1) 看護チームメンバーからの看護実践の教育・相談を受けることができる。
- 2) 日々の実習体験を評価し、専門能力を高めるための自らの課題について看護チームカンファレンスにおいて問題提起し、解決の方策を見いだすことができる。さらに相談内容に適切なコンサルテーション技法を用いることができる。

〔調整〕

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者として、受け持ち患者のケアを円滑に行うために、医師、薬剤師、看護チームメンバーなどの保健医療に携わる人々の間の調整を行うことができる。

〔倫理〕

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者として、患者の人権やプライバシーに関わる倫理的課題を見極め、適切に対応できたかも含めて看護評価を行なうことができる。

〔研究〕

- 1) 急性・重症患者看護（家族ケアを含む）に求められる卓越性や専門性・倫理的課題について実習体験を通じて考察を深めることができる。
- 2) 実習体験をケースレポートとしてまとめ、急性・重症患者看護（家族ケアを含む）における今後の研究課題について明確にすることができる。先行研究の文献を検索し、比較検討することができる。

実習場所：東京慈恵会医科大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、杏林大学医学部附属病院、院生の所属施設他

実習計画(例)

実習週	実習内容	実習場所
1 週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。 また、専門看護師としての役割を修得する。 ※上記目標の〔実践〕〔教育〕〔相談〕の部分	東京慈恵会医科大学病院 聖マリアンナ医科大学病院 杏林大学医学部附属病院 他
2 週目前半	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。 また、専門看護師としての役割を修得する。 ※上記目標の〔実践〕〔教育〕〔相談〕〔調整〕の部分	東京慈恵会医科大学病院 聖マリアンナ医科大学病院 杏林大学医学部附属病院 他
2 週目後半	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。さらに、倫理的な問題・葛藤について調整する方法を探究する。 ※上記目標の〔実践〕〔教育〕〔相談〕〔倫理〕の部分	東京慈恵会医科大学病院 聖マリアンナ医科大学病院 杏林大学医学部附属病院 他
3 週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。さらに、実践の場における研究活動（レポート作成）を行う。 ※上記目標の〔実践〕〔研究〕の部分	聖マリアンナ医科大学病院 日本医科大学病院 杏林大学医学部附属病院 他

実習場所との連携

- 1) 実習の依頼に関しては、実習機関所属長と本大学院で取り決めを行う。
- 2) 実習の詳細について専門看護師、調整担当者等に説明して了解を得る。
- 3) 大学院生は事前に実習計画書を提示し、病棟師長をはじめ、スタッフにも実習の目的などについて、十分理解が得られるように働きかける。

評価

専門看護師とともに必要な調整を行い、評価する。実習態度、参加状況、提出レポートを総合して評価する。

指導の役割

(高島尚美教授)

急性・重症患者看護学実習の全過程の実習計画、実践、評価の責任者である。

(学内講師)

大学院生の実習目的・目標の設定、実習方法や実践の場における助言を行い、実習場・施設の責任者との日程交渉、事例検討会の評価・フィードバック等を行う。

(山口庸子・挟間しのぶ、藤野智子・荒井知子非常勤講師)

実習中の大学院生への相談・助言を行う。受け持ち患者・家族への同意及び承諾を得る。急性・重症患者看護専門看護師の役割活動範囲・責務に関する指導、事例検討会への出席、適切な評価・フィードバックを行う。

(実習指導者)

急性・重症患者看護の卓越した実践能力を備えている看護師（師長等）が実習指導者として、実習中の大学院生への相談・助言を行う。

科目名 : がん看護学特論 I (がん看護理論)	開講学年 : 1 年次
英文名 : Advanced Cancer Nursing	開講学期 : 前期
担当教員 : 佐藤正美 (科目責任者)、望月留加	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : がん看護学分野

授業目標 : 高度実践指導者として、専門的ながん看護を行っていくうえで基盤となる概念、主要理論（ストレス・コーピング・危機・喪失・悲嘆・適応・セルフケア・自己概念等）について探究する。

授業方法 : 講義、プレゼンテーション、討議

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	がん看護、がんサバイバーシップの基本概念、トータルペイン	佐藤正美
2	がん看護の歴史的背景と近年の動向、がん医療対策	佐藤正美
3	がん医療における看護師の役割	佐藤正美
4	がん看護専門看護師の役割	佐藤正美
5	手術療法を受けるがん患者と家族/対象理解	佐藤正美
6	手術療法を受けるがん患者と家族のケア	佐藤正美
7	札幌国際がんシンポジウム参加①	佐藤正美
8		佐藤正美
9	札幌国際がんシンポジウム参加②	佐藤正美
10		佐藤正美
11	札幌国際がんシンポジウム参加③	佐藤正美
12		佐藤正美
13	4 大学院連携ワークショップへの参加	佐藤正美 望月留加
14	・学会報告 ・がん看護関連論文のクリティーク : がん医療対策と看護	佐藤正美 望月留加
15	・学会報告 ・グループディスカッション : がん患者・家族の現状と課題/がん看護の展望	佐藤正美 望月留加

準備学習（予習・復習等） : 参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法 : 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書 : 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名 : がん看護学特論Ⅱ (がん看護に関する病態生理と診断・治療) 英文名 : Pathophysiology & Cure Management for Cancer Patients 担当教員: 佐藤正美 (科目責任者)、望月留加、内田 満、鈴木正章、相羽恵介 下山直人、青木 学、矢野真吾、伊藤達彦、野木裕子	開講学年: 1 年次 開講学期: 前期 単位数 : 2 単位 開講形態: 講義
---	--

科目区分: がん看護学分野

授業目標: がん看護、特に緩和ケアにおいて、最新の知見を踏まえてその専門技術を実践していくために、予防、診断、患者の病態生理、最新の治療（手術療法・リハビリテーション・化学療法・幹細胞移植・放射線療法・補完代替療法・薬物療法）、終末期の過程における知識を深め、全人的緩和ケアに関する基本概念と理論を探究する。

授業方法: 講義、プレゼンテーション、討議

授業計画: (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	がん医療の知識と看護実践の統合について	佐藤正美
2	高度看護実践に求められる臨床薬理の基礎知識	佐藤正美
3	精神腫瘍学の概念と診断・治療の実際	伊藤達彦
4	緩和ケアチームにおける診療の実際	伊藤達彦
5	遺伝からみたがん看護—遺伝性腫瘍の遺伝的理解と治療	鈴木正章
6	がん薬物療法と造血幹細胞移植療法	矢野真吾
7	がん薬物療法の副作用管理とチーム医療	相羽恵介
8	緩和ケアにおける病態と Q O L に関する概念と理論	下山直人
9	乳がんの診断と治療の実際	野木裕子
10	乳がんの最新治療と遺伝性乳がん、若年性乳がんに対する診療の現状	野木裕子
11	手術治療による形態変化に対する治療の実際	内田 満
12	がん治療による形態変化への治療効果 (Q O L の視点から) と課題	内田 満
13	がん放射線治療の実際	青木 学
14	最新の放射線治療とチーム医療	青木 学
15	4 大学院連携ワークショップへの参加	佐藤正美 望月留加

準備学習 (予習・復習等) :

- ・参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。
- ・授業のはじめに、看護と病態生理、診断治療の知識を統合するための導入学習を行う。

評価方法: 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書: 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名 : がん看護学特論Ⅲ (がん看護援助論 [理論編]) 英文名 : Nursing Intervention for Cancer Patients & Patient's Family 担当教員: 佐藤正美 (科目責任者)、望月留加	開講学年: 1 年次 開講学期: 前期 単位数 : 2 単位 開講形態: 講義
--	--

科目区分: がん看護学分野

授業目標: がんの予防、病名、診断治療に伴う予後告知・治療の選択、意思決定および症状マネジメントにおける高度実践指導者としてのアセスメント、援助技術に必要な援助論について探究する。さらに看護援助技術を展開する上での、医療提供システム内を調整する能力について探究する。

授業方法: 講義、プレゼンテーション、討議

授業計画: (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	がん看護・緩和ケア援助における実践概念と理論の探究	佐藤正美
2	がん患者の危機介入に関する理論の学習: フィンクの危機理論	佐藤正美
3	がん患者の危機介入に関する理論の学習: アギュラ・メズニックの危機理論	佐藤正美
4	がん患者のストレスコーピングに関する理論の学習: ストレスコーピング理論	佐藤正美
5	がん患者の危機介入・ストレスコーピングに関する理論の学習: 事例分析	佐藤正美
6	がん患者の危機介入・ストレスコーピングに関する理論の学習: 事例検討	佐藤正美
7	がん患者の症状マネジメントに関する理論の学習: IASM	望月留加
8	がん患者の症状マネジメントに関する理論の学習: IASM、セルフケア	望月留加
9	がん患者の症状マネジメント: 事例分析	望月留加
10	がん患者の症状マネジメント: 事例検討	望月留加
11	がん患者のスピリチュアルペインに関する理論の学習: スピリチュアリティ	望月留加
12	がん患者のスピリチュアルペインに関する理論の学習: 村田理論、悲嘆	望月留加
13	がん患者のスピリチュアルペインに関する理論の学習: 事例分析	望月留加
14	がん患者のスピリチュアルペインに関する理論の学習: 事例検討	望月留加
15	4 大学院連携ワークショップ参加	佐藤正美 望月留加

準備学習 (予習・復習等) : 参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法: 出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書: 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名 : がん看護学演習 I (がん看護援助論 [実践編]) 英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Cancer Patients & Patient's Family 担当教員: 佐藤正美 (科目責任者)、望月留加、細川舞、児玉久仁子、上杉英生 菅野かおり、北田陽子、小林直子、久山幸恵、久米恵江、細矢美紀	開講学年: 1 年次 開講学期: 後期 単位数 : 2 単位 開講形態: 演習
--	--

科目区分: がん看護学分野

授業目標: 予防、診断、病名・予後告知、治療選択、治療、諸症状についてのアセスメント、援助技術を修得する。援助者としてがん患者の人権を擁護するために倫理的判断のアセスメント等、実践的な課題をもって高度実践者の視点で看護モデルを分析・探究する。

授業方法: セミナー、臨地での実践学習

授業計画: (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	文献クリティーク: がん看護分野における高度看護実践	佐藤正美 望月留加 細川舞
2		
3	周手術期にあるがん患者や家族に対する高度実践看護	上杉英生
4		
5	がん化学療法における高度看護実践と看護モデル、および動向と課題について	菅野かおり
6		
7	高度先進医療も含めた放射線治療を受ける患者への看護実践と動向および課題	北田陽子
8		
9	集学的治療を受けるがん患者の事例検討	佐藤正美 望月留加 細川舞
10		
11	緩和ケア病棟、緩和ケアチームにおける高度な看護援助技術とがん看護専門看護師の活動	小林直子
12		
13	緩和ケアを受けるがん患者の事例検討	佐藤正美 望月留加 細川舞
14		
15	がん看護における家族看護 家族看護に関する理論と概要・家族に対する援助の実際	児玉久仁子
16		
17	がん患者の家族看護: 事例検討	佐藤正美 望月留加 細川舞
18		
19	がん看護専門看護師に求められる役割(コンサルテーション)	久山幸恵
20		

21	がん看護に関するコンサルテーションの事例検討	佐藤正美 望月留加 細川舞
22		
23	がん看護専門看護師に求められる役割(倫理調整)	久米恵江
24		
25	国立がん研究センター がん対策情報センターの役割と活動の実際、およびその成果	細矢美紀
26		
27	がん看護に関する倫理調整事例検討	佐藤藤正美 望月留加 細川舞
28		
29	がん医療、がん看護の最新の動向に関する文献クリティーク	佐藤正美 望月留加 細川舞
30		

準備学習（予習・復習等）：参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書：1. 鈴木和子、渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践，第3版 日本看護協会出版会，2006

2. 畠山とも子他：家族看護実践センター編著：DVDBOOK 臨床での家族支援Ⅰ・Ⅱ，日本看護協会出版会，2011
その他、必要な場合、担当教員より事前に指定する。演習課題のプレゼンテーションを自ら実施するために基本的な資料を検索する

科目名：がん看護学演習Ⅱ (緩和ケアⅠ)	開講学年：1年次
英文名：Seminar/Palliative Care for Cancer PatientsⅠ	開講学期：後期
担当教員：望月留加(科目責任者)、佐藤正美、内田満、細川舞	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：がん看護学分野

授業目標(到達目標)：がん患者のヘルスアセスメントに必要な身体診察技術を習得し、フィジカルアセスメント能力を養う。
また、患者、家族、医療スタッフと適切なコミュニケーションを図り、診療録などの記録と合わせて早期に患者の全体像を把握し、包括的な看護アセスメントを行った上で看護問題を抽出するための能力も養う。さらに、患者や家族、医療スタッフの状況からがん看護専門看護師として関わる問題を見極め、理論を用いて現象を説明し、必要な看護援助について探求する。

授業方法：セミナー、臨地での実践学習

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	コースオリエンテーション、フィジカルアセスメント・看護理論の復習	内田満 望月留加
2		
3	臨床演習①： 医師の診察に同行し、事例Aのフィジカルアセスメントや生活等に関する情報収集を行う。	望月留加
4		
5		
6		
7	臨床演習①の成果発表	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
8		
9	臨床演習②： 演習①や成果発表を受け、不足情報の収集等を行う。	望月留加
10		
11		
12		
13	臨床演習②の成果発表	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
14		
15	臨床演習③： 医師の診察に同行し、事例Aのフィジカルアセスメントや生活等に関する情報収集を行う。	望月留加
16		
17		
18		
19	臨床演習③の成果発表	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
20		

21	臨床演習④： 演習③や成果発表を受け、不足情報の収集等を行う。	望月留加
22		
23		
24		
25	臨床演習④の成果発表	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
26		
27	事例 A または B の最終発表会	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
28		
29	まとめ	佐藤正美 内田満 望月留加 細川 舞
30		

準備学習（予習・復習等）：フィジカルアセスメント、包括的アセスメントツール、看護理論を復習しておく。

評価方法：出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名：がん看護学演習Ⅲ (緩和ケアⅡ) 英文名：Seminar/Palliative Care for Cancer Patients Ⅱ 担当教員：佐藤正美(科目責任者)、望月留加、細川舞、角田真由美、 秋山正子、服部絵美、渡邊知映	開講学年：2年次 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：演習
--	---

科目区分：がん看護学分野

授業目標：がんと共に生活する人々、家族の特性を理解し、薬物療法や補完代替療法など創意工夫して、より安楽な日常のためのアセスメント援助技術を強化する。特に緩和ケアにおける身体、心理、社会、霊的ケアについて援助モデルの構築と、専門看護師の役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)と地域連携の論理的な根拠を強化する。

授業の方法：セミナー、臨地での実践学習

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	第3回日本CNS看護学会参加	佐藤正美
2		
3	終末期ケアにおける疼痛・症状緩和について臨地での実践モデルの検証と新しい高度な ケアのあり方を検討する。 * 地域連携保健学分野・成人看護分野と共修	秋山正子 服部絵美
4		
5	終末期ケアにおける在宅・地域ケアとの連携、相談について実践モデルの検証と新しい 高度なケアのあり方を検討する。 * 地域連携保健学分野、成人看護分野と共修	
6		
7	演習①：参加観察演習 在宅療養中のがん患者、家族の実際と看護支援	秋山正子 服部絵美
8		
9		
10		
11	見学演習②：参加観察演習 在宅療養中のがん患者、家族の実際と看護支援	秋山正子 服部絵美
12		
13		
14		
15	演習①と②の成果発表	佐藤正美 望月留加 細川舞
16		
17	演習③：参加関与演習 がんサロンに参加する患者や家族の実際と看護支援	角田真由美
18		
19	演習④：参加関与演習 がんサロンに参加する患者家族の実際と看護支援	角田真由美
20		
21	演習③と④の成果発表	佐藤正美 望月留加 細川舞
22		
23	専門看護師活動の可視化を行うための研究構成、および研究方法について	渡邊知映
24		

25	多職種とのパートナーシップを基盤とし、地域連携を進めるスキルを養う。 (4 大学院連携がんチーム医療ワークショップ)	佐藤正美 望月留加 細川舞
26		
27	多職種とのパートナーシップを基盤とし、地域連携を進めるスキルを養う。 (4 大学院連携がんチーム医療ワークショップ)	佐藤正美 望月留加 細川舞
28		
29	文献クリティーク：がん看護専門看護師の進化と広がり	佐藤正美 望月留加 細川舞
30		

準備学習（予習・復習等）：参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況、プレゼンテーション、グループ討議への参加、レポート等を総合評価する。

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科 目 名： がん看護学実習	開講学年： 1・2年
英 文 名： Advanced Practicum of Cancer Nursing	開講学期： 前期・後期
担当教員： 佐藤正美（科目責任者）、望月留加、細川舞	単 位 数： 6単位
	開講形態： 実習

科 目 区 分： がん看護学分野

実 習 概 要： がん患者・家族のQOLの向上に寄与するために、特論と演習での学習を基盤にして、がん看護・緩和ケアを中心に、高度看護実践指導者（専門看護師）として必要な高度な実践能力を養う。同時に専門看護師の6つの役割（卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的問題の調整）を修得する。

1. 実習目標

[がん看護・緩和ケア]

がんおよびがん治療がもたらすあらゆる有害事象、苦痛症状、及び苦悩を緩和するために、薬物療法や代替・相補療法等を用いて創意工夫し、心理的、社会的、霊的に、科学的なアセスメントのもとに専門看護師のスーパービジョンを受けて以下の援助ができる。緩和ケアを焦点にするが、化学療法、放射線療法、手術療法および相補・代替療法等のがん治療に伴う、看護実践能力と倫理観、看護観をも発展させることができる。

1) 身体的苦痛

①がん性疼痛、②全身倦怠感、③がん性悪液質症候群、④消化器症状（嘔気・嘔吐、腸閉塞、便秘、下痢、腹水、嚥下困難）、⑤呼吸症状（呼吸困難、咳、胸水、喘鳴）、⑥泌尿器症状（排尿困難・尿閉、失禁、血尿）、⑦神経症状、⑧内分泌異常（高カルシウム血症）

2) 精神的苦痛の緩和

①精神症状と援助（サイコオンコロジー、危機介入、コーピング）、②不安（ストレスと不安）、③抑うつ・死の願望・自殺・危険因子、④せん妄

3) 社会的苦痛の緩和

①家族のケア・家族の発達段階とダイナミックス、②がんサバイバーシップ、③経済的問題、④療養上の心理社会的問題の調整、⑤家族の予期悲嘆・死の受容・臨終時の家族のケア

4) 霊的苦痛の緩和・ライフレビュー・生きる意味

[役割実習]

以下のがん専門看護師が実践する個人・家族または集団に対して卓越した看護の役割について説明することができる。

- 1) 専門看護師としてのアセスメント、計画、援助技術の卓越した実践、評価と課題探求能力を発揮し、説明できる。
- 2) 病棟や院内におけるカンファレンスや研修会等の企画や実践に参加観察して、ケアを向上させるための教育的機能の実践的展開について説明することができる。
- 3) 患者および看護職者を含むケア提供者、組織間のコンサルテーションについて、説明することができる。
- 4) チームケアにおける、家族やスタッフ、保健医療福祉に携わる人々との連携、協働、調整について、効果的なケアのあり方を説明することができる。
- 5) 病棟や院内で行われている看護研究について理解を深め、専門看護師の看護研究活動について説明することができる。
- 6) がん患者や家族の権利や意思を尊重し、ケアチームで話し合い、倫理原則を基本とした対処法を検討し、説明することができる。

2. 実習内容

1) 実習方法

(1) がん看護・緩和ケアに関する実習

がん専門看護師のスーパービジョンのもとに 4 単位 4 週間以上のがん看護・緩和ケアの実践実習を行う。

具体的には第1週目の2日間は①実習施設・病棟のオリエンテーションおよび病棟看護師に同行して、ケアを見学・実施を行う。第1週目3日目に②担当患者の決定と同意の取得を行う。以降は③CNSのスーパーバイズのもとに看護実践を行う。④週1回はCNS、教員、病棟担当看護師を交えてカンファレンスを行う。⑤原則として1単位45時間とするが、実習効果及び学習到達度により、期間を分割、あるいは延長して実習をすることもある。

(2) がんCNS役割に関する実習

がん専門看護師のスーパービジョンのもとに2単位2週間以上のがん専門看護師の役割実習を行う。具体的にはがん専門看護師の活動に同行し、がん専門看護師の実践モデルについて展開し、分析する。原則として1単位45時間とするが、実習効果及び学習到達度により、期間を分割、あるいは延長して実習をすることもある。

2) 実習場所

国立がん研究センター中央病院
国立がん研究センター東病院
静岡県立静岡がんセンター
東京慈恵会医科大学附属病院
神奈川県立がんセンター

3) 実習指導者

実習指導者：がん専門看護師
実習調整者：看護部長、副看護部長
実習担当教員：大学院がん看護学担当教員

*実習指導者と大学院教育担当者は、実習期間中、毎週1回のカンファレンスで事例検討、進捗状況の確認・連携と調整を行う。

実習		実習内容	実習場所
がん看護学実習	実習Ⅰ(がん看護実践実習)	がん看護の高度な看護実践を修得する。 ※上記目標の「がん看護」の部分	国立がん研究センター中央病院 国立がん研究センター東病院 静岡県立静岡がんセンター 東京慈恵会医科大学附属病院 神奈川県立がんセンター
	実習Ⅱ(がんCNS役割実習)	がん専門看護師の役割を修得する。 ※上記目標の「役割実習」の部分	
	実習Ⅲ(緩和ケア実践実習)	緩和ケアの高度な看護実践を修得する。 ※上記目標の「緩和ケア」の部分	

4) カンファレンス

(1) 個別カンファレンス

毎週1回がん看護学担当教員による実習施設へのラウンド時に実施する。

(2) 集合カンファレンス

実習の総合評価とまとめのために、大学院内で実施する。

5) 実習レポート

(1) がん看護・緩和ケアに関する実習においては、アセスメント（フィジカルアセスメントも含めて）対処計画・実践・評価のプロセスを明確にして看護モデルを構築して、記載する。①身体的苦痛緩和 ②精神的苦痛緩和 ③社会的苦痛緩和 ④霊的苦痛緩和について踏まえたレポートを提出する。

(2) がんCNS役割実習においては、6つの役割（卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的問題の調整）すべてにおいてレポートを提出する。レポートの形式は認定申請様式を参考にし、①複雑で対処困難な課題・アセスメント ②対処計画・実践・評価のプロセスを記載する。

3. 実習場所との連携

- 1) 実習の依頼に関しては、実習機関所属長と本大学院が取り決めるを行う。
- 2) 実習の詳細について専門看護師、調整担当者等に説明して了解を得る。
- 3) 大学院生は事前に実習計画書を提示し、病棟師長をはじめ、スタッフにも実習の目的などについて、十分理解が得られるように働きかける。

4. 評価

専門看護師とともに必要な調整を行い、評価する。実習態度、参加状況、提出レポートを総合して評価する。

指導の役割

(佐藤正美教授)

がん看護学実習の全過程の実習計画・実践・評価の責任者である。実習目的・目標の設定、実習方法の指導助言を行い、実習場・施設となる責任者との日程交渉、事例検討会の企画、評価・フィードバック等を行う。

(望月留加准教授)

実習中の大学院生への相談・助言を行う。事例検討会への出席、実習記録の指導・助言を行う。評価・フィードバックを行う。

(細川舞講師)

実習中の大学院生への相談・助言を行う。事例検討会への出席、実習記録の指導・助言を行う。評価・フィードバックを行う。

(実習指導者)

がん看護の専門看護師が担当する。他に、卓越した実践能力を備えている看護師（師長等）が実習指導者及び補助者として、実習中の大学院生への相談、実際の指導、助言、事例検討会への出席、評価・フィードバック等を行う。同時に、実習中に受け持つ患者・家族への説明、同意・承諾を得る。

科目名：看護管理学特論Ⅰ (看護管理学概論)	開講学年：1年次
英文名：Advanced Nursing Administration	開講学期：前期
担当教員：田中幸子（科目責任者）、布施淳子、中三川厚子	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：看護管理学分野 共通科目

授業概要：保健医療福祉に携わる人々の間の調整を行い、看護管理に携わる看護職と連携して高度看護実践者・管理者として活動するために、看護組織のあり方、看護経営と業務管理・情報管理のあり方を学ぶ。また、看護制度・政策の現状を理解し看護職人材の確保と有効な活用策を探究する。

授業の進め方：講義、討議、プレゼンテーション

授業計画：（1回は90分）

回	内容	担当者
1	看護管理とは	田中幸子
2	医療提供体制の動向	田中幸子
3	看護組織論その1：看護の組織構造と管理的諸機能、組織論	田中幸子
4	看護経営経済論その1：自由経済市場と計画経済市場	中三川厚子
5	看護経営経済論その2：医療経済の特殊性、病院の経営	中三川厚子
6	看護組織論その2：組織を活性化するリーダーシップ	田中幸子
7	看護制度・政策論：看護制度の歴史と政策決定過程	田中幸子
8	看護と法：森永ヒ素ミルク事件と看護	田中幸子
9	看護人的資源活用論その1：看護職の需給の推移、看護師等の人材確保に関する法律	田中幸子
10	看護人的資源活用論その2：看護専門職の人材育成・キャリア開発	田中幸子
11	看護情報管理論：看護と個人情報保護	田中幸子
12	看護業務管理論その1：医療安全管理	布施淳子
13	看護業務管理論その2：医療安全管理	布施淳子
14	看護管理に関するプレゼンテーション1	田中幸子
15	看護管理に関するプレゼンテーション2	田中幸子

準備学習（予習・復習）：授業で配布した資料を熟読しながら最終プレゼンテーションの準備を進めていく。

評価方法：出席状況（50%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（30%）を総合して評価する。

参考書：参考文献については適宜提示する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16：20～18：00、非常勤講師は授業終了後に受ける。

科目名：看護管理学特論Ⅱ (労務管理論) 英文名：labor management 担当教員：田中幸子（科目責任者）、酒井一博	開講学年：1年次 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義
--	---

科目区分：看護管理学分野

授業目標：看護職者の労働特性を踏まえて労働法制を理解し、多様化する看護職者の職場環境と労務管理の在り方を考察することができる。

授業方法：講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回	内容	担当
1	オリエンテーション、多様化する看護職者の職場と労務管理の在り方	田中 幸子
2	看護職者の労働特性と健康管理 ―労働生理学からの検討―	酒井 一博
3	看護職者の働き方と健康管理 ―労働政策からの検討―	酒井 一博
4	看護職の労務管理に必要となる労働法制1	田中 幸子
5	看護職の労務管理に必要となる労働法制2	田中 幸子
6	労働判例から看護職者の働き方を考える	田中 幸子
7		田中 幸子
8		田中 幸子
9		田中 幸子
10	看護職者の仕事の質と生活、キャリア形成 事例検討	田中 幸子
11		田中 幸子
12		田中 幸子
13		田中 幸子
14		田中 幸子
15	まとめ	田中 幸子

準備学習（予習・復習）：授業で配布した資料を熟読しながら最終プレゼンテーションの準備を進めていく。

評価方法：出席状況、レポート、討議参加度、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16：20～18：00、非常勤講師は授業終了後に受ける。

科目名：看護管理学特論Ⅲ (看護情報管理学概論)	開講学年：1年次
英文名：Nursing Informatics	開講学期：後期
担当教員：田中幸子(科目責任者)、緒方泰子	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：看護管理学分野

授業目標：情報の概念を理解することができる。

情報システムの保健医療福祉への活用の意義、必要性を理解できる。

看護研究に必要な、基本的情報処理方法を理解し、情報を整理することができる。

授業の進め方：講義、PCを用いた情報処理、プレゼンテーション、討議、文献講読

授業計画：(1回は90分)

回数	内容	担当
1	情報とは何か。保健医療福祉データの意義	田中 幸子
2	個人情報保護と情報公開制度	田中 幸子
3		
4	公開されている情報の活用と注意すべきこと	田中 幸子
5		
6	質問紙調査の原則	緒方 泰子
7		
8	演習：アンケート作成のための調査票の作成	田中 幸子
9	アンケート結果の集計の仕方	緒方 泰子
10		
11	SPSSによる分析方法	緒方 泰子
12		
13	質的研究方法	田中 幸子
14		
15	プレゼンテーションの技法	田中 幸子

準備学習(予習・復習等)：授業中に提示された参考書、資料を熟読し復習する。

評価方法：出席状況、レポート(、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16:20~18:00、非常勤講師は授業終了後に受ける。

科目名：看護管理学特論Ⅳ (看護組織論) 英文名：Development of Nursing Organization 担当教員：田中幸子(科目責任者)	開講学年：1年次 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義
--	---

科目区分：看護管理学分野

授業目標：組織の理論、経営目標を達成するための組織の形態、連携について理解できる。既習の理論を活用して現状分析ができる。

授業方法：講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回	内容	担当者
1	組織論	田中幸子
2	組織の形態	田中幸子
3		
4	変革する組織	田中幸子
5		
6	組織の形態協働と連携	田中幸子
7		
8		
9	保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ	田中幸子
10		
11	行政・団体の役割	田中幸子
12		
13	組織のビジョンと人材管理	田中幸子
14	演習：組織を考える	田中幸子
15		

準備学習(予習・復習)：授業で配布した資料を熟読しながら最終プレゼンテーションの準備を進めていく。

評価方法：出席状況、レポート、討議参加度、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16:20~18:00に受ける。

科目名：看護管理学特論Ⅴ (看護政策アセスメント)	開講学年：2年次
英文名：Nursing Policy	開講学期：前期
担当教員：田中幸子（科目責任者）、小山田恭子	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：看護管理学分野

授業目標：日本の政治の在り方を歴史的に概観しながら保健医療福祉政策の動向を踏まえ、看護政策に必要な要素、看護政策の意義と仕組みを理解できる。さらに、看護政策の立案過程から現在、今後の看護制度の課題を考察することができる。

授業方法：講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回	内容	担当者
1	オリエンテーション（授業の目標、進め方、プレゼンテーション）	田中幸子
2	日本の政治体制、政策とは	田中幸子
3	英国の看護政策立と人材養成 ポリティカルリーダーシッププログラム	田中幸子
4	看護制度の変遷1（保健婦助産婦看護婦法改正の政策過程）	田中幸子
5	政策過程論1 病院経営と政策 *地域連携保健学分野と共修	田中幸子 ゲストスピーカー 工藤 高
6		
7	政策過程2 政策と診療報酬 *地域連携保健学分野と共修	田中幸子 ゲストスピーカー 工藤 高
8		
9	政策過程3 看護教育政策の変遷 *地域連携保健学分野と共修	小山田恭子
10		
11	政策過程4 看護教育政策の展望 *地域連携保健学分野と共修	小山田恭子
12		
13	看護政策（資料からの分析とディスカッション）	田中幸子
14		
15		

準備学習（予習・復習等）：授業中に提示された参考書を熟読し復習する。

授業中のディスカッション・プレゼンテーションでは文献を根拠に自分の考えを発表できるように準備しておく。

評価方法：出席状況、レポート、討議参加度、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：1. 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト 第7巻 看護制度・政策論，日本看護協会出版会，2012.

その他の参考書及び文献は、随時提示または配布する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16：20～18：00、非常勤講師は授業終了後に受ける

科目名：看護管理学演習 (看護組織におけるキャリア開発) 英文名：Seminar/Career Development in Nursing organization Human Resource 担当教員：田中幸子 (科目責任者)	開講学年：1年次 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習
--	---

科目区分：看護管理学分野

授業目標：組織論、経営目標を達成するための人材の確保、育成、活用等、人材資源管理について理解できる。既習の理論を活用して現状分析ができる。

授業方法：講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回数	内容	担当者
1	看護管理の基本原則	田中幸子
2	看護の人材育成、キャリア開発に関する研究動向	田中幸子
3		
4		
5	病院等施設における看護管理に関する研究動向	田中幸子
6		
7		
8		
9	看護基礎教育の実践と教育の課題	田中幸子
10		
11		
12		
13	継続教育の課題	田中幸子
14		
15		
16		
17	看護管理に関する文献講読 (1)	田中幸子
18		
19		
20		
21	看護管理に関する文献講読 (2)	田中幸子
22		
23		
24		
25	看護管理学研究の課題	田中幸子
26		
27		
28		

29	看護管理の動向のまとめと発表	田中幸子
30		

準備学習（予習・復習等）：授業中に提示された参考書、資料を熟読し復習する。

評価方法：出席状況、レポート、討議参加度、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：開講時に伝える。

オフィスアワー：質問がある場合は、毎週火曜日の16：20～18：00、メールで受ける。

科目名：母子健康看護学特論Ⅰ (女性のライフステージと健康課題：ジェンダー学を含む)	開講学年：1年次
英文名：Advanced Women's Health Nursing	開講学期：前期
担当教員：茅島江子(科目責任者)、細坂泰子	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：母子健康看護学分野

授業目標：女性のライフステージ全般にわたるリプロダクティブヘルスケアの理論と実践について教授し、新たな援助方法を開発するための研究方法を探究する。思春期から更年期までの心身の特徴や各時期に生じやすい健康問題、健康問題の予防及び健康問題に対する援助に関する理論と実践について教授し、リプロダクティブヘルスケアを発展させるための援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。また、社会・文化的な性としてのジェンダーの視点から、女性の健康問題との関連を論じ、ジェンダー・センシティブな援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。

授業方法：講義、討議、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と女性の健康	茅島江子 細坂泰子
2	セクシュアルヘルスの概念と女性の健康	茅島江子 細坂泰子
3	ジェンダーの概念と女性の健康	茅島江子 細坂泰子
4	思春期の健康問題と看護(月経異常、人工妊娠中絶)	茅島江子 細坂泰子
5	思春期のセクシュアリティと看護(性行動、性教育、性同一性障害)	茅島江子 細坂泰子
6	成熟期の健康問題と看護(性感染症、生殖補助医療)	茅島江子 細坂泰子
7	成熟期のセクシュアリティと看護(セックスレス、性機能障害、家族計画)	茅島江子
8	更年期の健康問題と看護(更年期障害、ヘルスプロモーション)	茅島江子
9	更年期のセクシュアリティと看護(性機能障害、セックスカウンセリング)	茅島江子 細坂泰子
10	性暴力と看護	茅島江子 細坂泰子
11	生殖補助医療と看護	茅島江子 細坂泰子
12	女性の健康に関する現状と動向	茅島江子 細坂泰子
13	プラハ看護研修(世界乳幼児精神保健学会参加・母子支援施設見学)	茅島江子
14	プラハ看護研修(世界乳幼児精神保健学会参加・母子支援施設見学)	茅島江子
15	プラハ看護研修事後学習	茅島江子

準備学習(予習・復習等)：事前にリプロダクティブヘルスに関する国内外の研究論文、新聞、雑誌等から情報収集し、わが国や諸外国におけるリプロダクティブヘルス/ライツの現状と動向について把握しておく。なお、参考書は授業・討議時に活用するので、事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況 20%、プレゼンテーション 20%、グループ討議への参加 20%、レポート 40%で総合評価する。

参 考 書：1. 吉沢豊予子編：女性生涯看護学ーリプロダクティブヘルスとジェンダーの視点からー、真興交易(株)、医書出版部、2004.

2. ナンシー・F・ウッズ編：ヒューマン・セクシュアリティ ヘルスケア篇、日本看護協会出版会、1993.

3. ナンシー・F・ウッズ編：ヒューマン・セクシュアリティ 臨床看護篇、日本看護協会出版会、1993.

4. 日本性科学会監修：セックス・カウンセリング入門改訂第2版、金原出版、2005.

科目名 : 母子健康看護学特論Ⅱ (母子相互作用・成長発達・家族看護に関する理論)	開講学年 : 1 年次
英文名 : Advanced Women's Health & Child Development	開講学期 : 前期
担当教員 : 茅島江子 (科目責任者)、高橋衣、細坂泰子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業目標 : 母子の健康支援のための基礎的な理論である母子相互作用、母性・父性の形成、成長発達理論及び家族看護システム論等について教授し、母子相互作用を促進する援助方法及び家族機能を有効に働かせ、子どもの健全な成長発達を図る援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。

授業方法 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1・2	周産期・子育て期における母子相互作用	茅島江子
3・4	周産期・子育て期における母性・父性の形成過程と支援の在り方	茅島江子
5	成長発達の理論	高橋 衣
6	胎児期・新生児期にある子どもの健全な成長発達を図る援助方法	高橋 衣
7	乳児期・幼児期にある子どもの健全な成長発達を図る援助方法	高橋 衣
8・9	学童期・思春期にある子どもの健全な成長発達を図る援助方法 ブラハ看護研修事前学修	高橋 衣
10・11	ブラハ看護研修(世界乳幼児精神保健学会参加・母子支援施設見学)	茅島江子 高橋 衣
12	ブラハ看護研修事後学修	高橋 衣 茅島江子
13	家族看護学における family as unit of analysis を学ぶ	細坂泰子
14	Family as unit of analysis を活かした形成期家族への援助法	細坂泰子
15	Family as unit of analysis を活かした形成期家族への研究方法	細坂泰子

準備学習 (予習・復習等) : 事前に母子相互作用、母性・父性の形成、成長発達理論及び家族看護システム論等について学修しておく。なお、参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法 : 出席状況 20%、プレゼンテーション 20%、グループ討議への参加 20%、レポート 40%で総合評価する。

参 考 書 : 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名：母子健康看護学特論Ⅲ (母子支援に関する行政システム) 英文名：Social System for Women's Health & Child Health 担当教員：茅島江子(科目責任者)、高橋 衣、細坂泰子、福島富士子	開講学年：1年次 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義
--	---

科目区分：母子健康看護学分野

授業目標：地域で子育てをする母子を支援するためには、保健・医療・福祉の連携が重要である。母子保健対策の一環として、地域で行われている母性保護に関する事業、育児等健康支援事業、乳幼児の育成医療、出産前小児保健指導、乳幼児発達相談指導、健やか親子21、病(後)児保育、難病対策等の母子保健支援に関する行政システム及びその連携について教授し、その現状と課題を明らかにするとともに、母子保健を充実させるための支援システムの構築に向けて、研究方法を探究する。

授業方法：講義、討議、プレゼンテーション

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	母性支援の現状と課題	茅島江子
2		
3	行政における地域母子保健政策の変遷と現状一次世代育成支援事業・活動	福島富士子
4	母子保健事業・活動の評価について	福島富士子
5	母子保健活動と地域ケアシステム— 個から家族そして地域へ	福島富士子
6	子育て支援システムの現状と課題	細坂泰子
7		
8	小児の医療保障制度の現状と課題	高橋 衣
9		
10	難病の子どもと家族のための行政システムの現状と課題	高橋 衣
11		
12	慢性疾患の小児と家族の支援のための施策の現状と課題	高橋 衣
13		
14	健康障害を有する小児の医療・教育・福祉の現状と課題	高橋 衣
15		

準備学習(予習・復習等)：事前に、国内外の研究論文、行政システムや施策に関する資料により基本的事項を押さえるとともに、必要時、行政システムの実践現場に出向き、利用者や支援者の声に耳を傾け、実際からの学びを大切にしながら自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。参考書は事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況 20%、プレゼンテーション 20%、グループ討議への参加 20%、レポート 40%で総合評価する。

参 考 書：1. 及川郁子監修：新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患療養育成指導マニュアル，診断と治療社，2006.
2. 加藤忠明，西牧謙吾，原田正平：すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル，東京書籍株式会社，2005.

科目名：母子健康看護学特論Ⅳ (母〔女性〕への援助論)	開講学年：1年次
英文名：Seminar／Nursing Intervention for Women's Health	開講学期：前期
担当教員：茅島江子(科目責任者)、細坂泰子	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：母子健康看護学分野

授業目標：女性のライフステージ全般にわたるリプロヘルスケアの理論と実践について、それらに関する外国の研究論文を講読する。思春期から更年期までの心身の特徴や各時期に生じやすい健康問題について検討し、健康問題の予防及び健康問題に対する援助理論と実践について、その方法を探究する。

授業方法：講義、各自の研究課題に関する文献検討及び討議

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	リプロヘルスケアに関する研究課題と研究の動向	茅島江子 細坂泰子
2		
3	研究課題に関する先行研究のクリティーク	茅島江子 細坂泰子
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12	各自の研究課題の設定と研究デザインの設計	茅島江子 細坂泰子
13		
14		
15		

準備学習(予習・復習等)：事前に、わが国および諸外国における女性の健康問題について、研究論文、雑誌、新聞などから情報を収集しておく。なお、参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況 20%、プレゼンテーション 20%、グループ討議への参加 20%、レポート 40%で総合評価する。

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

科目名：母子健康看護学特論Ⅴ (子ども・その家族への援助論)	開講学年：1年次
英文名：Seminar/Nursing Intervention for children's Health	開講学期：後期
担当教員：高橋 衣(科目責任者)	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：母子健康看護学分野

授業概要：子どもとその家族のライフステージ全般にわたるヘルスケアの理論と実践について、それらに関する国内外の研究論文を講読する。新生児期から思春期（青年期）までの心身の特徴や各時期に生じやすい健康問題について検討し、健康問題の予防及び健康問題に対する家族も含めた援助理論と実践について、その方法を探究する。

授業方法：講義、各自の研究課題に関する文献検討及び討議

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	チャイルド・ヘルスケアに関する研究課題と研究の動向	高橋 衣
2		
3	研究課題に関する先行研究のクリティーク 研究課題の設定と研究デザインの設計	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11	乳幼児精神保健学会学術集会参加：長崎大学（長崎県）	
12		
13		
14		
15	学会参加後の振り返り：研究課題にそったプレゼンテーション	

成績評価方法：出席状況40%、プレゼンテーション30%、課題レポート30%で評価する。

参 考 書：必要な場合、事前に指定する。

受講上の注意：事前に国内外の研究文献を検索し、自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名：母子健康看護学演習 (母子支援システム構築)	開講学年：2年次
英文名：Seminar/Advanced Nursing Intervention for Women's Health & Child Health	開講学期：前期
担当教員：茅島江子（科目責任者）、高橋 衣、細坂泰子	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：母子健康看護学分野

授業目標：母子支援に関する保健医療福祉システムについて、それらに関する国内外の研究論文を講読するとともに、実際の活動に参加して、その現状や課題について検討し、母子支援システム構築のための方法を追究する。

授業方法：講義、各自の課題に関する文献検討及びフィールドワークと討議

授業計画：（1回は90分）

回	内 容	担当者
1	母性保護の現状と課題	茅島江子
2	育児支援の現状と課題	細坂泰子
3	母性保護に関する母子支援の現状と課題	茅島江子
4		
5	育児支援に関する母子支援の現状と課題	細坂泰子
6		
7	母子支援活動：産後ケアセンター、助産所など、地域における母子支援活動	茅島江子 細坂泰子
8		
9		
10	参加した母子支援活動における支援システムの分析	茅島江子 細坂泰子
11		
12	母子に対する今後の支援のあり方（考察）	茅島江子 細坂泰子
13		
14	母子支援の現状と課題：難病の子どものキャンプ・親の会の活動等	高橋 衣
15		
16	母子支援活動：難病の子どものキャンプ・親の会の活動 (フィールドワークへの参加)	高橋 衣
17		
18		
19		
20	母子支援活動における支援システム（参加したフィールドワークを分析）	高橋 衣
21	母子支援に対する今後の支援のあり方	高橋 衣

22	母子支援の現状と課題：発達障害を有する小児と家族に対する支援活動	高橋 衣
23		
24	母子支援活動：慢性疾患を有する小児と家族に対する支援活動 (フィールドワークへの参加)	高橋 衣
25		
26	参加した母子支援活動における支援システムの分析	高橋 衣
27	母子支援に対する今後の支援のあり方（考察）	高橋 衣
28	母子支援システムの構築	茅島江子 高橋 衣 細坂泰子
29		
30		

準備学習（予習・復習等）：事前に、母子支援に関する学修を十分に行い、準備性を高めてフィールドワークや見学実習等に主体的に参加すること。そこでの学びを文献等を活用して深め、プレゼンテーションや討議を通じて考察を深める。参考書は事前に購読しておくこと。

評価方法：出席状況 20%、プレゼンテーション 20%、グループ討議への参加 20%、レポート 40%で総合評価する。

参 考 書：1. A・H・カツツ著 久保絃章監訳：セルフヘルプ・グループ. 岩崎学術出版, 東京, 1997
2. 及川郁子監修：新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患療養育成指導 マニュアル, 診断と治療社, 2006.

科目名：地域連携保健学特論 I (地域連携保健学概論) 英文名：Advanced Partnership in Medical Professions 担当教員：櫻井尚子(科目責任者)、持尾聰一郎、香月毅史、菊池麻由美 伊達久美子	開講学年：1 年次 開講学期：前期 単位数：2 単位 開講形態：講義
---	---

科目区分：地域連携保健学分野

授業目標：地域連携保健学の概観を捉え、患者や家族を生活者として捉え、支援するための連携協働について考究する。

授業方法：講義、プレゼンテーション、討議

授業計画：(1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	地域連携保健学とは	櫻井尚子
2	災害時のメンタルヘルスケア	香月毅史
3	非感染性疾患(生活習慣病)と神経難病	持尾聰一郎
4		
5	難病患者を支える看護職と現象学	菊池麻由美
6		
7	Patient Management Flour 支援の現状と課題 1	櫻井尚子
8		
9	患者・家族・保健医療者にとっての慢性の病	伊達久美子
10	ケアの本質 生きることの意味、文献のクリティーク	伊達久美子
11		
12	連携協働する目的と看護の使命、文献のクリティーク	伊達久美子
13		
14	問題解決思考、組織マネジメントと連携協働	櫻井尚子
15		

準備学習(予習・復習)：参考図書が提示されている場合は事前に購読しておく。

各講義課題に対する論文を各自が選択し持参する。

持参した論文のクリティークを事前に行い、説明できるようにしておく。

評価方法：出席および授業への取り組み(討議、プレゼンテーション)、文献のクリティーク内容を総合評価する。

参 考 書：下記以外の参考文献資料については、適時提示または配布する。

1. ピエールウグ・黒江ゆりこ他(訳) 慢性疾患の病と軌跡-コービンとストラウスによる看護モデル. 医学書院. 1995
2. ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宜之訳. ケアの本質 生きることの意味. ゆみる出版. 2012
3. ジェロームグループマン他. 堀内志奈(訳). 決められない患者たち. 医学書院. 2013 年
4. 村上晴彦. 摘便とお花見-看護の語りの現象学. 医学書院. 2013 年
5. 岸見一郎. 古賀史健. 嫌われる勇気-自己啓発の源流アドラーの教え. ダイヤモンド社. 2013 年
6. スティーブン R コヴィー, 他. フランクリン・コヴィー・ジャパン訳. 第 3 の案. キングベア出版. 2012 年

科目名：地域連携保健学特論Ⅱ (高齢者・家族の看護)	開講学年：1年次
英文名：Advanced Nursing Care for Older People and Family	開講学期：前期
担当教員：梶井文子(科目責任者)	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：地域連携保健学分野

授業目標：1. 老年期にある人と家族への高度な看護実践を行うために必要な諸理論を理解する。

2. 高齢者ケアに関する国内の制度、施策の動向を理解し、課題を探究する。

3. 高齢者と家族の健康問題のアセスメント、評価方法を理解する。

4. 認知症高齢者と家族に対する看護(アセスメント～支援方法)を理解する。

5. 高齢者の栄養ケア・マネジメントを理解する。

6. 高齢者のアドバンスケアプランニングを理解し、倫理的課題を抽出する。

7. 様々な高齢者看護の場における質保証。質管理方法について理解する。

授業方法：講義、プレゼンテーション、討議

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	オリエンテーション	梶井文子
2	国内の高齢者ケアに関する制度・政策の動向と課題 (保健医療福祉制度、介護保険制度、地域包括ケアシステム)	
3	高齢者と家族への看護実践を行うために必要な諸理論	梶井文子
4	(コーピング・適応理論、コンフォート理論)	
5	高齢者と家族の健康問題のアセスメント・評価方法	梶井文子
6	(フレイル、ロコモティブシンドローム、転倒、うつ等)	
7	認知症高齢者と家族に対する看護(1)	梶井文子
8	(アセスメント、診断、治療)	
9	認知症高齢者と家族に対する看護(2)	梶井文子
10	(パーソン・センタード・ケア、様々なケア方法)	
11	高齢者の栄養ケア・マネジメント	梶井文子
12	(栄養状態の評価、摂食・嚥下リハビリテーション、NST活動を含む)	
13	高齢者のアドバンス・ケア・プランニング・倫理的課題	梶井文子
14		
15	様々な高齢者看護の場における質保証・質管理	梶井文子

準備学習(予習・復習)：教員より指定する参考図書を事前に購読する。

評価方法：出席および授業への取り組み(討議、プレゼンテーション)、レポートを総合的に評価する。

参 考 書：一部表示、その他は事前に指定する。

1. 厚生統計協会、国民衛生の動向、最新版。
2. Charlotte Eliopoulos: Gerontological Nursing, Lippincott Williams & Wilkins.
3. トム・キットウッド著、高橋誠一訳、認知症のパーソン・センタード・ケア：筒井書房。
4. 認知症の人の家族支援、ワールドプランニング。
5. 看護理論のための意思決定10のステップ、ジョイスE. トンプソン、日本看護協会出版。

科目名：地域連携保健学特論Ⅲ (家族と家族看護)	開講学年：1年次
英文名：Family and Family Nursing	開講学期：後期
担当教員：北 素子（科目責任者）	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：地域連携保健学分野

授業目標：家族看護の実践方法を探究する。

授業方法：家族看護をテーマに文献購読、情報収集、事例分析（課題抽出と支援計画立案）を展開することを通して、理論を活用した実践方法を習得する。

授業計画：（1回は90分）

回	内 容	担当者
1	ガイダンス	北 素子
2	学会参加報告 プレゼンテーション・討議	
3	家族と家族看護に関する文献購読（自己学習）	北 素子
4		
5	学会：日本家族看護学会 第23回学術集会（於：山形）	北 素子
6	学会 8月27日（土曜日）、8月28日（日曜日）	北 素子
7	学会	北 素子
8	学会	北 素子
9	文献を通して理論を理解する（家族理論）	北 素子
10	プレゼンテーション・討議	
11	文献を通して理論を理解する（家族看護理論）	北 素子
12	プレゼンテーション・討議	
13	事例分析（アセスメントによる課題抽出と支援計画立案）	北 素子
14	プレゼンテーション・討議	
15	まとめ	北 素子

準備学習（予習・復習）：授業で扱うテーマに関する参考図書、文献は、担当者から提示するものだけでなく、各自で積極的に調べ入手すること。各回授業には、提示あるいは各自で調べ取り寄せた参考図書、文献を熟読し、十分な準備（提示資料の作成等）をして参加すること。

分析事例を科目開始までに各自選定し、ガイダンスで提示し指導を受けること。

評価方法：出席状況、プレゼンテーション、討議内容等を総合評価する。

参 考 書：参考図書、文献資料については、随時提示または配布する。

科目名：地域連携保健学特論Ⅳ (個人・家族・地域を支える包括ケア)	開講学年：1年次
英文名：Comprehensive Care for Patients & Family, Community	開講学期：後期
担当教員：嶋澤順子(科目責任者)	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：地域連携保健学分野

授業目標：特定集団や地域を対象とした包括ケア構築の実践方法を探求する。

授業方法：個人、家族支援を基盤とする特定集団または地域における包括ケア構築をテーマに、文献講読、情報収集、事例分析(課題抽出と支援計画立案)を展開することを通して、理論を活用した実践方法を習得する。

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	ガイダンス	嶋澤順子
2	PRECEDE-PROCEED モデルに関する文献講読(自己学習)	嶋澤順子
3		
4	文献を通して理論を理解する(プレゼンテーション, 討議)	嶋澤順子
5		
6	学会参加(日本看護科学学会:東京)	嶋澤順子
7		
8	学会参加(日本看護科学学会:東京)	嶋澤順子
9		
10	学会報告	嶋澤順子
11	事例分析	
12	(PPモデルを活用した事例分析のための情報収集, 分析)	
13	事例分析(プレゼンテーション, 討議)	嶋澤順子
14		
15	まとめ, 課題レポートの提示	

準備学習(予習・復習): 授業で扱うテーマに関する参考図書, 文献は, 担当者から提示するものだけでなく, 各自で積極的に調べ入手すること。各回授業には, 提示あるいは各自で調べ取り寄せた参考図書, 文献を熟読し, 十分な準備(提示資料の作成等)をして参加すること。

評価方法: 出席状況, プレゼンテーション, 討議内容等を総合評価する。

参 考 書: 参考図書, 文献資料については, 随時提示または配布する。

科目名：地域連携保健学特論Ⅴ (健康支援に関する理論と組織マネジメント)	開講学年：1年次
英文名：Organizational Management in Medical Professions	開講学期：後期
担当教員：櫻井尚子(科目責任者)、清水由美子	単位数：2単位
	開講形態：講義

科目区分：地域連携保健学分野

授業目標：1. 健康支援に関する理論を学び、実践に活用する基盤を形成する。

2. ポジティブ・サイコロジー、自己効力感、首尾一貫感覚を重視した保健行動へのアプローチ方法を用いた研究について考究する。

3. 組織マネジメントに関する理論を学修し、チーム医療や退院支援などの看護の在り様を考究する。

授業方法：講義、プレゼンテーション、討議

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	オリエンテーション・文献検索等	櫻井尚子・清水由美子
2	首尾一貫感覚 Sense of Coherence の理論	櫻井尚子・清水由美子
3		
4	ヘルスプロモーションの理論と保健行動 自己効力感、ヘルスリテラシー	櫻井尚子・清水由美子
5		
6	ポジティブ・サイコロジーの理論と保健行動	櫻井尚子・清水由美子
7		
8	マネジメントの基本と原則	櫻井尚子・清水由美子
9		
10	組織行動のマネジメント 組織の中の個人と集団	櫻井尚子・清水由美子
11		
12	組織行動のマネジメント 組織システム	櫻井尚子・清水由美子
13		
14	保健行動へのアプローチと組織行動のマネジメント	櫻井尚子・清水由美子
15		

準備学習(予習・復習)：参考図書は、事前に購読しておく。

評価方法：出席および授業への取り組み(討議、プレゼンテーション)を総合評価する。

参 考 書：

- 山崎喜比古、戸ヶ里泰典、坂野純子. ストレス対処能力 SOC. 2008. 有信堂
- National Cancer Institute. Theory at a Glance A Guide for Health Promotion Practice. 2005.
<http://www.cancer.gov/PDF/481f5d53-63df-41bc-bfaf-5aa48eeda4d/TAAG3.pdf> 福田吉治、他(監修)
一目でわかるヘルスプロモーション 理論と実践ガイドブック. 2008年. 国立保健医療科学院.
- ローリィ・N・ゴットリーブ他. (吉本照子 監訳). 協働的パートナーシップによるケア. 2007.
- 島井哲志. ポジティブ心理学-21世紀の心理学の可能性-ナカニシ出版. 2011.
- スティーブ P ロビンソン/高木晴夫(訳) 新版 組織行動のマネジメント. 2009. ダイヤモンド社
- PF ドラッカー上田惇生(訳) エッセンシャル版 マネジメントの基本と原則. 2001. ダイヤモンド社

科目名：地域連携保健学演習 (組織マネジメントと連携システム)	開講学年：2年次
英文名：Seminar/Evaluation for Comprehensive Medical Care	開講学期：前期
担当教員：櫻井尚子(科目責任者)、秋山正子、服部絵美、小山田恭子	単位数：2単位
	開講形態：演習

科目区分：地域連携保健学分野

授業概要：保健医療福祉における実践の課題解決を図る連携協働（個人と集団を含む）の方略を探究する。

また、医療経済学を踏まえた組織改革や政策立案に向けての取り組みについて考究する。

授業の進め方：講義、文献検討、見学演習、プレゼンテーション、討議

授業計画：(1回は90分)

回	内 容	担当者
1	組織行動のマネジメントー組織の中の個人	櫻井尚子
2		
3	組織行動のマネジメントー組織の中の集団	櫻井尚子
4		
5	組織行動のマネジメントの実際	櫻井尚子
6		
7	医療・看護の地域連携実践モデル＊がん看護学、成人看護学分野と共修 ・在宅ケアのつながる力-訪問看護ステーション ・がん患者とその家族への支援 ・「暮らしの保健室」ー在宅医療連携モデル事業 ・暮らしの保健室の事例検討会 ＊成人看護分野・がん看護分野と共修	秋山正子 服部絵美
8		
9		
10		
11		
12		
13	チーム医療と医療経済学 診療報酬改定と病院経営 ＊看護管理学分野と共修	櫻井尚子 ゲストスピーカー (工藤 高)
14		
15		
16		
17	政策過程に関する実践 ＊看護管理学分野と共修	小山田恭子
18		
19		
20		
21	保健医療看護における地域連携の実践例 ・学会や実践事例の見学や参加により情報を収集し考究する。	櫻井尚子
22		
23		
24		
25	チーム医療・退院支援・組織マネジメントに関する実践	櫻井尚子
26		

27	チーム医療・退院支援・組織マネジメントに関する評価	櫻井尚子
28		
29	チーム医療・退院支援・組織マネジメントに関する課題	櫻井尚子
30		

準備学習（予習・復習）：参考図書は事前に購読しておく。

評価方法：授業参加状況、討議、プレゼンテーション、レポートを総合評価する。

参考書：適時、文献を提示する。

1. 秋山正子. 在宅ケアのはぐくむ力。医学書院・2012
2. 秋山正子. 在宅ケアのつながる力。医学書院. 2011
3. 秋山正子. 在宅ケアの不思議な力. 医学書院. 2010
4. 特集がん対策の強化-公衆衛生. 77（12）. 2013. 948-1029.
5. 30年後の医療の姿を考える会編. メディカルタウンの再生力～英国マギーズセンターから学ぶ～.
Npo 法人在宅ボランティアの会. 2010.
6. 30年後の医療の姿を考える会編. メディカルタウンの“看取りのルネサンス”～喪失から再生への地域ケア
共同体へ～非がん患者さんの緩和ケアと QOL を求めて. Npo 法人在宅ボランティアの会. 2013.
7. スティーブン P ロビンソン／高木晴夫訳. 新版 組織行動のマネジメント. 2009. ダイヤモンド社
8. PF ドラッカー／上田惇生訳. エssenシャル版 マネジメント基本と原則. 2001. ダイヤモンド社

研究

科目名：看護学特別研究Ⅰ 英文名：Master's thesis / Nursing ResearchⅠ 担当教員：佐藤正美、望月留加、内田 満 田中幸子 茅島江子、高橋 衣、細坂泰子 櫻井尚子、北 素子、嶋澤順子、梶井文子、持尾聡一郎 松藤千弥 高木廣文	開講学年：1年次 開講学期：前・後期（通年） 単位数：3単位 開講形態：演習
---	---

科目区分：研究

授業目標：専門性と客観性がある研究を実施するために必須である研究計画書の作成プロセスを教授し、各自の研究テーマに基づいた研究計画書を完成させる。

授業方法：文献クリティーク、個人面接、プレゼンテーション、グループ討議

授業計画：（1回は90分）

回数	内 容	担当者
1	文献検索指導	学術情報センター
2		
3	量的研究と研究デザイン	高木廣文
4		
5		
6	研究計画書作成の内容	教学担当教員
7	研究計画書立案のプロセス ・研究課題とテーマ ・文献検索と研究意義の明確化 ・研究デザインと方法 ・研究対象とフィールド ・研究倫理 ・計画書の作成 最新の研究動向の把握（関連する学術集会に参加）	担当教員 全員
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42	研究計画書のプレゼンテーション	担当教員 全員
43		
44		
45		

準備学習（予習・復習等）：

- ・参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。
- ・自らの考えを記載し、研究者の弱みについては自主的に学ぶと共に積極的に指導を求め学修する。
- ・研究テーマに関連する学術集会に出席し最新の研究動向を把握する
- ・学会やゼミなどのディスカッションに参加し、各自の研究を発展させる機会とする。

評価方法：取り組みの過程と研究計画書の完成度を総合的に評価する。

参 考 書：他、必要な場合は担当教員より指定する。

科目名 : 看護学特別研究Ⅱ	開講学年 : 2年次
英文名 : Master's thesis / Nursing Research Ⅱ	開講学期 : 前・後期 (通年)
担当教員 : 佐藤正美、望月留加、内田 満	単位数 : 3単位
田中幸子	開講形態 : 演習
茅島江子、高橋 衣、細坂泰子	
櫻井尚子、北 素子、嶋澤順子、梶井文子、持尾聡一郎	
高島尚美	

科目区分 : 研究

授業概要 : 各分野の教員の指導のもとに専門性を高めた研究を行い、修士論文として完成させる。

授業方法 : 個人ワーク、個人面接、グループ討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11	研究計画書に基づいた研究実施のプロセス	
12	・研究計画書の修正	
13	・倫理委員会提出 (許可)	
14	・データ収集	
15	・分析	
16	・修士論文作成	
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

担当教員
全員

26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42	研究発表会（修士論文発表とディスカッション、その後の修士論文の修正）	担当教員 全員
43		
44		
45		

準備学習（予習・復習等）

- ・参考図書が掲示されている場合は事前に購読しておくこと。
- ・自らの考えを記載し、研究者の弱みについては自主的に学ぶと共に積極的に指導を求め学修する。
- ・研究テーマに関連する学術集会に出席し最新の研究動向を把握する
- ・学会やゼミなどのディスカッションに参加し、各自の研究を発展させる機会とする。

評価方法：取り組みの過程と研究達成度を総合的に評価する。

参 考 書：必要な場合は担当教員より事前に指定する。

1. 前田樹海、江藤裕之、APA に学ぶ看護系論文執筆のルール（医学書院）

シラバス（授業計画）

平成 28 年（2016）4 月 1 日発行

東京慈恵会医科大学大学院
医学研究科看護学専攻修士課程

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

TEL 03-3433-1111

FAX 03-5400-1285

<http://www.jikei.ac.jp>